

平成20年

福島県感染症発生動向調査事業報告書

(平成20年1月～12月)

平成21年3月

福島県感染症情報センター
(福島県衛生研究所)
福島県感染症情報解析委員会

はじめに

感染症発生動向調査は、平成 11 年 4 月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下感染症法)の施行に基づき、各都道府県の「感染症発生動向調査事業実施要綱」によって実施されています。平成 20 年 1 月には、感染症法の一部改正に伴い、風しんおよび麻しんが定点把握疾患から全数把握疾患へ変更となり、また、6 月には鳥インフルエンザ(H5N1)が二類感染症へ追加されました。

福島県においても「福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」により、平成 13 年 7 月から地方感染症情報センターを福島県衛生研究所内に移管・設置して、県内の患者情報及び病原体情報を一元的に収集し、その解析と提供を行ってきました。

情報センターが収集・解析した情報は、週報・月報として定点医療機関や医師会等の関係機関に還元し、さらに、衛生研究所のホームページへ掲載することで、県民の皆様幅広く情報提供を行っております。

平成 20 年は、百日咳、特に成人での百日咳の増加が問題となりました。また、新型インフルエンザの発生も懸念され、感染症対策がますます重要性をおびてきています。

このたび、平成 20 年の事業報告書を発行することになりました。発行に際し、定点医療機関をはじめ関係機関のご協力に深く感謝申し上げます。また、本報告書を広くご活用いただき、県民の感染症予防に役立ていただければ幸いです。

平成 21 年 3 月

福島県衛生研究所長 西田茂樹

目 次

福島県感染症発生動向調査事業実施概要	
(1) 福島県感染症発生動向調査事業実施概要	5
(2) 福島県感染症情報センターの概念図	6
福島県感染症発生動向調査事業一～五類，新型インフルエンザ等感染症全数把握 及び五類感染症定点把握，法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 報告	
(1) 一～五類，新型インフルエンザ等感染症【全数把握】対象結果報告	8
(2) 一～五類，新型インフルエンザ等感染症【全数把握】報告調査結果（福島県・ 全国）	14
(3) 五類感染症【定点把握】対象結果報告	16
(4) 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症結果報告	42
検査情報	
(1) 2008 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）	46
(2) 2008 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）	52
(3) 2007/2008 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況について	58

福島県感染症発生動向調査事業実施概要

(1) 福島県結核・感染症発生動向調査事業の実施概要

1 実施体制

(1) 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱等

本事業の実施に関わる要綱等は、本誌 資料に掲げるとおりである。

(2) 指定届出医療機関（定点選定）

福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、指定届出医療機関【患者定点；小児科：48 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（75）から（85）までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関を小児科定点として指定する。〕、インフルエンザ：80 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（86）については、前記で選定した小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。〕、眼科：12 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（87）及び（88）については、眼科を標榜する医療機関を眼科定点とする。〕、STD：16 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（89）から（92）については、産婦人科又は産科若しくは婦人科、性病科又は泌尿器科を標榜する医療機関を性感染症定点とする。〕、基幹：7 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（93）から（99）については、患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各 2 次医療圏域毎に一カ所以上、基幹定点とする。〕、疑似症：124 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 2（102）については、内科又は小児科を標榜する医療機関、（103）については、内科、小児科又は皮膚科を標榜する医療機関を疑似症定点とする。〕、及び病原体定点：21 医療機関〔各選定された患者定点の概ね 10%を病原体定点とする。〕】を選定する。

(3) 福島県感染症発生動向調査企画委員会

本事業の実施の推進を図るため、福島県感染症発生動向調査企画委員会を、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により設置する。

(4) 福島県感染症情報解析委員会

収集した患者情報及び病原体情報を、より専門的な観点から解析、提供を行うため、福島県感染症発生動向調査企画委員会のもとに福島県感染症情報解析委員会を設置する。

2 実施状況

(1) 情報収集

ア 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により、患者定点として選定された医療機関は、調査単位が週（月曜日から日曜日まで）の場合は対象週の翌週の月曜日までに、月単位の場合は対象月の翌月の初日までに、FAX 等で保健所に送信する。

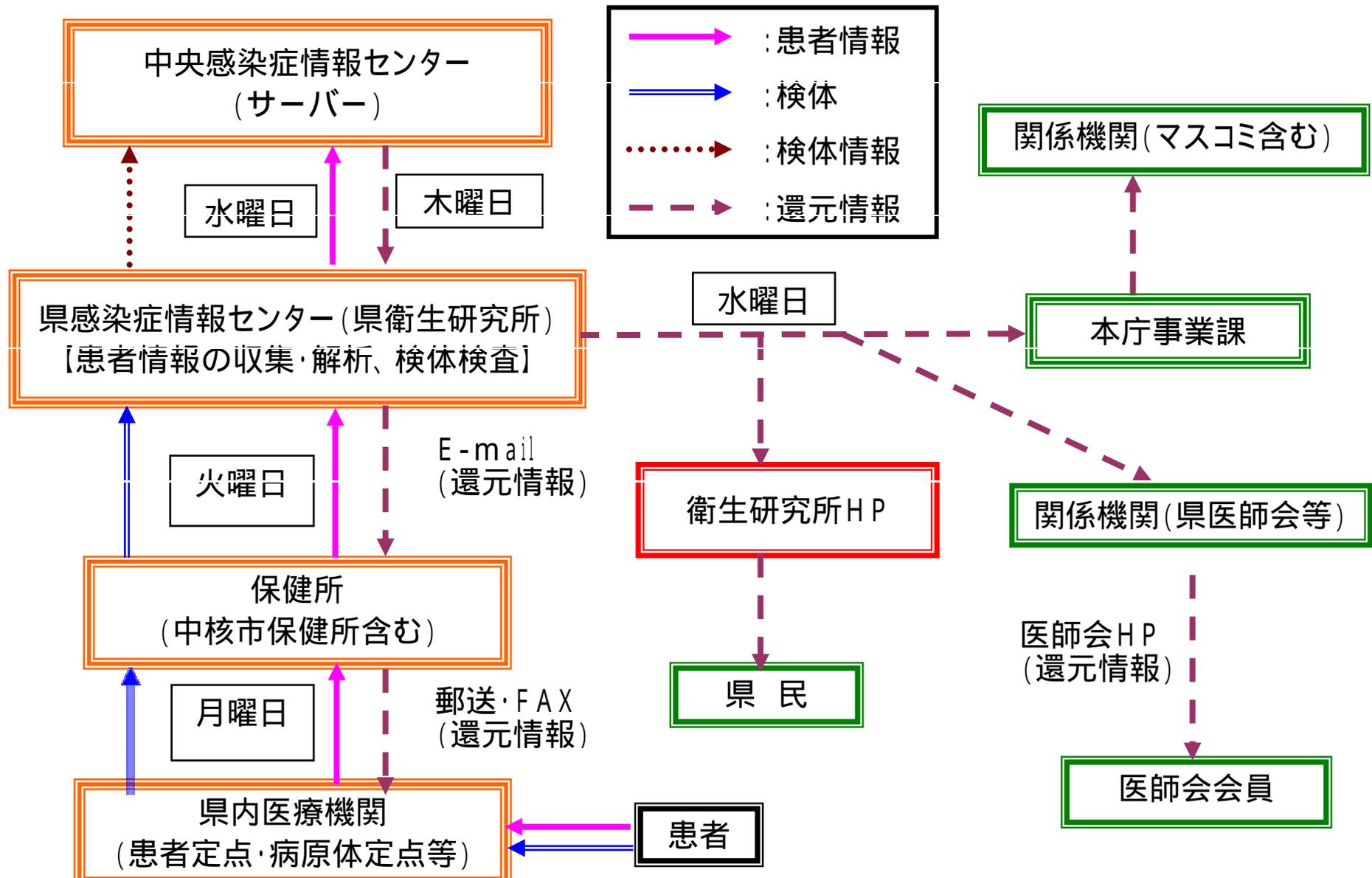
保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週の場合は調査対象週の翌週の火曜日までに、調査対象が月の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、福島県感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。

イ 福島県病原体検査実施要領により、各病原体定点から採取された検体は、福島県衛生研究所で検査を行い、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、検査情報として福島県感染症情報センター及び医療看護課に報告する。

(2) 情報還元

福島県感染症情報センターは、患者情報及び病原体情報を週単位および月単位で収集、解析するとともに、その結果を全国情報と併せて、週報及び月報等として保健所に提供するとともに福島県医師会、福島県教育委員会、その他関係機関等に提供・公開する。

(2) 感染症情報センターの概念図



**福島県感染症発生動向調査事業一～五類，
新型インフルエンザ等感染症全数把握及び
五類感染症定点把握，
法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症
報告**

(1) 一～五類，新型インフルエンザ等感染症全数把握対象結果報告

一類感染症〔全数把握〕

(1) エボラ出血熱，(2) クリミア・コンゴ出血熱，(3) 痘そう，(4) 南米出血熱，(5) ペスト，(6) マールブルグ病，(7) ラッサ熱の一類感染症の報告はなかった。

二類感染症〔全数把握〕

(8) 急性灰白髄炎の報告はなかった。

(9) 結核の報告は 349 例あった。県北で遊戯施設での集団感染が 1 件（49 例）あった。

・結核報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
20年	151	41	25	18	41	3	28	42	349
19年	66	24	17	14	32	3	15	26	197

平成 19 年は 4 月 1 日から 12 月 31 日までの報告数

(10) ジフテリア，(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体が S A R S コロナウイルスであるものに限る），(12) 鳥インフルエンザ（H5N1）の報告はなかった。

三類感染症〔全数把握〕

(13) コレラの報告はなかった。

(14) 細菌性赤痢の報告は 3 例あり，県中から 1 例〔45 週（学童：感染原因不明）〕，会津から 1 例〔39 週（10 歳代：感染原因不明）〕，相双から 1 例〔20 週（30 歳代，推定感染原因：海産物）〕の報告があった。

・細菌性赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
20年	3 例	経口感染：海産物の生もの（1 例），不明（2 例）
19年	1 例	経口感染（ <i>Shigella flexneri</i> ）：自宅で冷凍保存した白子
18年	1 例	不明

(15) 腸管出血性大腸菌感染症の報告は 52 例あった。

・腸管出血性大腸菌感染症年別報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
20年	17	16	4	0	0	0	14	1	52
19年	4	4	1	1	2	0	4	38	54
18年	4	6	6	5	2	0	3	32	58

〔月別報告数〕

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
20年	0	0	0	1	0	1	11	16	8	8	3	4	52
19年	0	0	1	1	0	1	1	37	9	3	1	0	54
18年	0	0	1	0	1	2	7	12	5	30	0	0	58

〔型別報告数〕

型	20年	19年	18年
O 26	20	37	5
O 103	0	2	3
O 111	3	0	1
O 121	1	4	0
O 157	28	11	49
計	52	54	58

(16) 腸チフス, (17) パラチフスの報告はなかった。

四類感染症〔全数把握〕

- (18) E型肝炎, (19) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)の報告はなかった。
 (20) A型肝炎の報告は3例あり, 県北から1例〔29週(20歳代, 推定感染地域: インド)], 県南から1例〔19週(40歳代, 推定感染地域: フィリピン), 会津から1例〔38週(20歳代, 感染地域: インド)]の報告があった。
 (21) エキノコックス症, (22) 黄熱の報告はなかった。
 (23) オウム病の報告は1例あり, 27週に会津(30歳代: インコを飼育)から報告があった。
 (24) オムスク出血熱, (25) 回帰熱, (26) キャサヌル森林病, (27) Q熱, (28) 狂犬病, (29) コクシジオイデス症, (30) サル痘, (31) 腎症候性出血熱, (32) 西部ウマ脳炎, (33) ダニ媒介脳炎, (34) 炭疽の報告はなかった。
 (35) つつが虫病の報告は67例あり, 前期(1~6月)に22例〔県北(8例), 郡山市(5例), 県中(4例), 県南(1例), 会津(3例), 南会津(1例)], 後期(7~12月)に45例〔県北(2例), 郡山市(11例), 県中(14例), 県南(17例), 相双(1例)]の報告があった。

・つつが虫病年別報告状況

〔保健所別報告数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
20年	10	16	18	18	3	1	1	0	67
19年	2	9	12	14	6	0	1	0	44
18年	9	6	11	16	1	2	0	0	45

〔月別報告数〕

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
20年	0	1	0	6	10	5	0	0	0	8	22	15	67
19年	1	0	3	0	4	5	0	0	0	0	21	10	44
18年	0	0	2	2	8	7	1	0	1	2	17	5	45

(36) デング熱の報告は3例あり、県北から1例〔33週(30歳代, 感染地域: インドネシア)], 郡山市から2例〔ともに8週(20歳代, 30歳代, とともに感染地域: インドネシア)]の報告があった。

(37) 東部ウマ脳炎, (38) 鳥インフルエンザ(H5N1を除く), (39) ニパウイルス感染症, (40) 日本紅斑熱, (41) 日本脳炎, (42) ハンタウイルス肺症候群, (43) Bウイルス病, (44) 鼻疽, (45) ブルセラ症, (46) ベネズエラウマ脳炎, (47) ヘンドラウイルス感染症, (48) 発しんチフス, (49) ポツリヌス症の報告はなかった。

(50) マラリアの報告は1例あり, 22週にいわき市(80歳代: 感染地域不明)から報告があった。

(51) 野兔病の報告は1例あり, 10週にいわき市(50歳代, 感染原因: 野兔の剥皮)から報告があった。

(52) ライム病, (53) リッサウイルス感染症, (54) リフトバレー熱, (55) 類鼻疽の報告はなかった。

(56) レジオネラ症の報告は7例あり, 県北から1例〔46週(70歳代)], 郡山市から4例〔5週(40歳代), 15週(80歳代), 19週(50歳代), 44週(70歳代)], 会津から1例〔10週(70歳代)], いわき市から1例〔21週(70歳代)]の報告があった。

・レジオネラ症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
20年	7例	水系感染(7例)
19年	12例	水系感染(3例), 水系感染・塵埃感染(1例), 土(1例), 不明(7例)
18年	4例	塵埃感染(2例), 不明(2例)

(57) レプトスピラ症, (58) ロッキー山紅斑熱の報告はなかった。

五類感染症〔全数把握〕

(59) アメーバ赤痢の報告は12例あり、県北から3例〔26週(50歳代), 40週(40歳代), 51週(20歳代)〕, 県中から2例〔15週(20歳代), 36週(20歳代)〕, 会津から1例〔27週(40歳代)〕, 相双から1例〔36週(60歳代)〕, いわき市から5例〔3週(60歳代), 11週(50歳代), 22週(40歳代), 29週(40歳代), 52週(40歳代)〕の報告があった。

・アメーバ赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
20年	12例	性行為感染(3例), 経口感染(3例), 不明(6例)
19年	7例	性行為感染(3例), 性行為感染・経口感染(1例), 不明(3例)
18年	7例	性行為感染(1例), 不明(6例)

(60) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)の報告は2例あり、県北から2例〔50週(40歳代), 52週(30歳代)〕の報告があった。

・ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
20年	2例	不明(2例)
19年	3例	不明(3例)
18年	3例	針等の鋭利なものの刺入による感染(2例), 不明(1例)

(61) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)の報告は3例あり、郡山市から1例〔8週(学童)〕, 相双から2例〔5週(幼児), 37週(幼児)〕の報告があった。

・急性脳炎年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
20年	3例	インフルエンザ(3例)
19年	3例	不明(3例)
18年	2例	インフルエンザ(2例)

(62) クリプトスポリジウム症の報告は1例あり、31週に郡山市(30歳代)から報告があった。

(63) クロイツフェルト・ヤコブ病の報告は1例あり、31週に郡山市(80歳代)から報告があった。

(64) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告は1例あり、40週に会津(40歳代)から報告があった。

・劇症型溶血性レンサ球菌感染症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
20年	1例	不明(1例)
19年	1例	不明(1例)
18年	2例	不明(2例)

(65) 後天性免疫不全症候群の報告は6例あり、県北から2例〔ともに52週(30歳代:女性, 無症候期), (40歳代:男性, 無症候期)〕, 郡山市から4例〔14週(40歳代:男性, 無症候期), 27週(30歳代:男性, AIDS), 27週(40歳代:男性, AIDS), 43週(70歳代:男性, AIDS)〕の報告があった。

・後天性免疫不全症候群年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
20年	6例	性的接触(異性間性的接触2例, 異性間・同性間性的接触3例), 不明(1例)
19年	8例	性的接触(異性間性的接触3例, 同性間性的接触1例), 静注薬物常用・性的接触(異性間同性間不明)(1例), 不明(3例)
18年	9例	性的接触(異性間性的接触3例, 同性間性的接触2例, 異性間・同性間性的接触2例), 輸血(1例), 不明(1例)

(66) ジアルジア症の報告は1例あり, 49週に県北(40歳代)から報告があった。

(67) 髄膜炎菌性髄膜炎, (68) 先天性風しん症候群の報告はなかった。

(69) 梅毒の報告は4例あり, 郡山市から2例〔29週(60歳代:早期顕症梅毒), 43週(30歳代:早期顕症梅毒)〕, いわき市から2例〔37週(40歳代:無症候梅毒), 42週(30歳代:無症候梅毒)〕の報告があった。

・梅毒年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
20年	4例	性的接触(3例), 不明(1例)
19年	9例	性的接触(6例), 不明(3例)
18年	3例	性的接触(2例), 不明(1例)

(70) 破傷風, (71) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告はなかった。

(72) バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告は1例あり, 31週にいわき市(80歳代)から報告があった。

(73) 風しんの報告は2例あり, 郡山市から1例〔26週(幼児)〕, 県中から1例〔15週(幼児)〕の報告があった。

(74) 麻しんの報告は22例あり, 県北から1例〔23週(幼児)〕, 郡山市から7例〔5週(20歳代), 10週(20歳代), 11週(30歳代), 15週(40歳代), 16週(10歳代), 23週(10

歳代), 37 週 (10 歳代)], 県中から 2 例 [14 週 (10 歳代), 15 週 (20 歳代)], 県南から 1 例 [25 週 (20 歳代)], 会津から 6 例 [3 週 2 例 (10 歳代, 20 歳代), 4 週 2 例 (10 歳代, 20 歳代), 5 週 (20 歳代), 25 週 (幼児)], 相双から 5 例 [19 週 2 例 (ともに 10 歳代), 20 週 (10 歳代), 21 週 2 例 (学童, 10 歳代)] の報告があった。

・麻しん報告状況

	報告例	ワクチン接種歴
20 年	22 例	有り (5 例), 無し (13 例), 不明 (4 例)

新型インフルエンザ等感染症〔全数把握〕

(100) **新型インフルエンザ**, (101) **再興型インフルエンザ** の報告はなかった。

(2) 一～五類，新型インフルエンザ等感染症全数把握報告調査結果

対象疾患		全国			福島県		
		平成20年*	平成19年*	平成18年	平成20年	平成19年	平成18年
一類	エボラ出血熱						
	クリミア・コンゴ出血熱						
	痘そう						
	南米出血熱(1)						
	ベスト						
	マールブルグ病						
	ラッサ熱						
二類	急性灰白髄炎	2					
	結核(1)	27,737	21,130		349	197	
	ジフテリア						
	重症急性呼吸器症候群(2)						
	鳥インフルエンザ(H5N1)(3)						
三類	コレラ	45	13	45		1	
	細菌性赤痢	318	451	490	3	1	1
	腸管出血性大腸菌感染症	4,307	4,602	3,922	52	54	58
	腸チフス	57	47	72		2	
	パラチフス	28	22	26		1	
	E型肝炎	43	55	71		1	
四類	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)						
	A型肝炎	170	156	320	3	4	
	エキノコックス症	17	21	20			
	黄熱						
	オウム病	9	30	22	1	1	1
	オムスク出血熱(1)						
	回帰熱						
	キャサナル森林病(1)						
	Q熱	3	7	2			
	狂犬病			2			
	コクシジオイデス症	2	3	2			
	サル痘						
	腎症候性出血熱						
	西部ウマ脳炎(1)						
	ダニ媒介脳炎(1)						
	炭疽						
	つつが虫病	434	382	417	67	44	45
	デング熱	104	89	58	3		
	東部ウマ脳炎(1)						
	鳥インフルエンザ(4)(1)						
	ニパウイルス感染症						
	日本紅斑熱	132	98	49			
	日本脳炎	3	10	7			
	ハンタウイルス肺症候群						
	Bウイルス病						
	鼻疽(1)						
	ブルセラ症	4	1	5			
	ベネズエラウマ脳炎(1)						
	ヘンドラウイルス感染症(1)						
	発しんチフス						
	ボツリヌス症	2	3	2			
	マラリア	57	52	62	1		
	野兔病	5			1		
	ライム病	5	12	13			
	リッサウイルス感染症						
	リフトバレー熱(1)						
類鼻疽(1)							
レジオネラ症	884	663	518	7	12	4	
レプトスピラ症	42	34	24				
ロッキー山紅斑熱(1)							

五類	アメーバ赤痢	861	799	752	12	7	7
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	236	235	280	2	3	3
	急性脳炎（5）	182	222	167	3	3	2
	クリプトスポリジウム症	9	6	18	1		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	148	153	177	1	2	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	111	98	106	1	1	2
	後天性免疫不全症候群	1,532	1,481	1,348	6	8	9
	ジアルジア症	75	57	86	1		
	髄膜炎菌性髄膜炎	10	17	14			
	先天性風しん症候群						
	梅毒	823	732	637	4	9	3
	破傷風	120	89	117		2	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	80	82	83	1	2	
	風しん（6）	303			2		
	麻しん（6）	11,005			22		
	新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ（3）					
再興型インフルエンザ（3）							

* 全国の平成19年，平成20年のデータは未確定です

- (1) 平成19年4月1日から調査開始
- (2) 病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る
- (3) 平成20年5月12日から調査開始
- (4) 鳥インフルエンザ(H5N1)を除く
- (5) ウエストナイル脳炎，西部ウマ脳炎，ダニ媒介脳炎，東部ウマ脳炎，日本脳炎，ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く
- (6) 平成20年1月1日から全数把握疾患となる

(3) 五類感染症定点把握対象結果報告

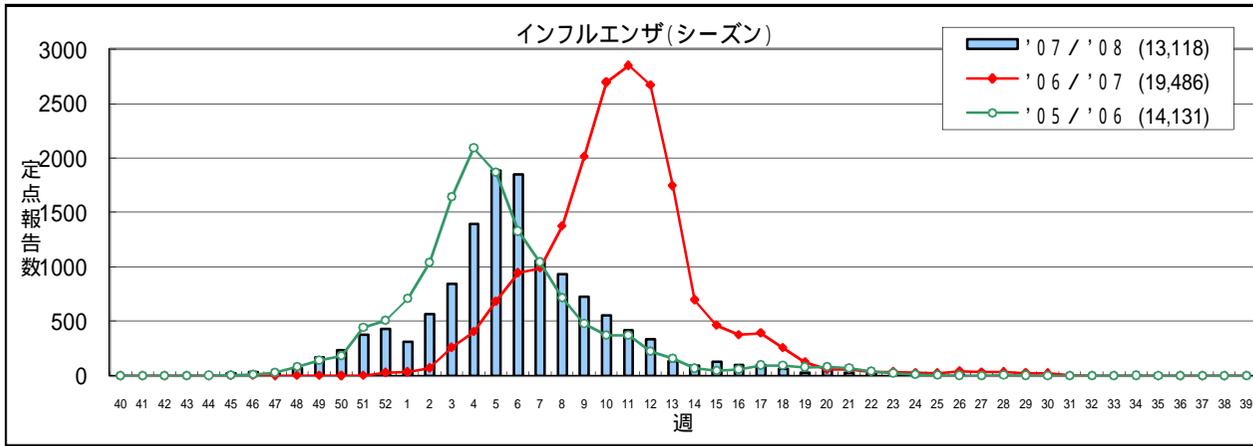
五類感染症対象疾患（定点把握）

(86)	インフルエンザ〔鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く〕 (80 インフルエンザ定点：32 内科定点，48 小児科定点)	週報対象疾患	
(75)	RS ウイルス感染症 (48 小児科定点)		
(76)	咽頭結膜熱 (48 小児科定点)		
(77)	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48 小児科定点)		
(78)	感染性胃腸炎 (48 小児科定点)		
(79)	水痘 (48 小児科定点)		
(80)	手足口病 (48 小児科定点)		
(81)	伝染性紅斑 (48 小児科定点)		
(82)	突発性発しん (48 小児科定点)		
(83)	百日咳 (48 小児科定点)		
(84)	ヘルパンギーナ (48 小児科定点)		
(85)	流行性耳下腺炎 (48 小児科定点)		
(87)	急性出血性結膜炎 (12 眼科定点)		
(88)	流行性角結膜炎 (12 眼科定点)		
(93)	クラミジア肺炎〔オウム病を除く〕 (7 基幹定点)		
(94)	細菌性髄膜炎 (7 基幹定点)		
(96)	マイコプラズマ肺炎 (7 基幹定点)		
(97)	無菌性髄膜炎 (7 基幹定点)		
(89)	性器クラミジア感染症 (16 STD 定点)		月報対象疾患
(90)	性器ヘルペスウイルス感染症 (16 STD 定点)		
(91)	尖圭コンジローマ (16 STD 定点)		
(92)	淋菌感染症 (16 STD 定点)		
(95)	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (7 基幹定点)		
(98)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7 基幹定点)		
(99)	薬剤耐性緑膿菌感染症 (7 基幹定点)		

五類感染症（定点把握）患者地域別定点機関数

	小児科定点	内科定点	眼科定点	基幹定点	STD 定点
県 北	10	7	3	1	4
郡山市	7	5	2	1	2
県 中	6	4	1	0	2
県 南	4	3	1	1	1
会 津	6	4	2	1	2
南会津	2	1	0	1	0
相 双	5	3	1	1	2
いわき市	8	5	2	1	3
計	48	32	12	7	16

(86) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)



インフルエンザ (80インフルエンザ定点)

07/08シーズンの定点報告数は13,118例あり、前シーズンと比較して約3割減の報告数であった。第45週から県北、いわき市を中心に流行が始まり、第49週に流行開始宣言をした。その後、県内各地域に流行が拡大し、第5週のピーク以降報告数が減少し、第19週に終息となったが、県北、会津では第25週まで流行が続いた。

年齢構成では、10歳未満が6割以上(66.4%)を占めた。



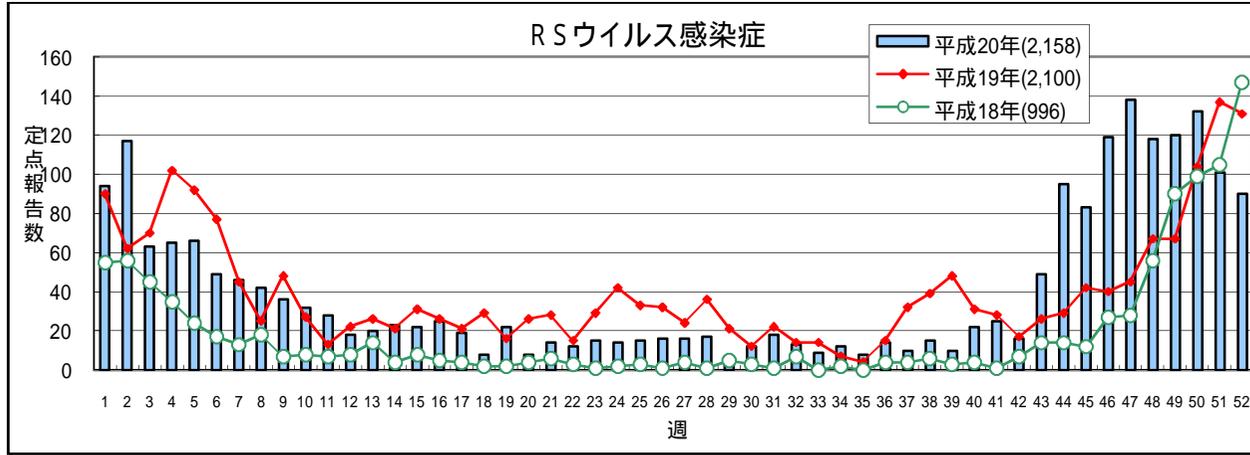
07/08シーズン 報告数

週	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w
県北	0	0	0	0	4	13	15	4	21	34	60	129	137	77	155	174	231	338	228	120	145	105	97	83	137	55	29
郡山市	0	0	0	0	1	1	0	1	1	7	14	40	56	54	88	97	177	288	321	187	113	116	106	84	53	30	24
県中	0	0	1	0	0	0	0	0	2	12	24	52	44	32	47	102	197	247	258	165	146	97	62	42	17	4	6
県南	0	0	0	0	0	0	0	1	5	12	32	60	70	58	66	111	151	202	226	140	135	91	65	39	43	12	7
会津	0	0	0	0	0	1	4	7	3	13	43	30	29	20	63	109	227	273	258	108	149	129	90	83	40	11	21
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4	5	10	24	13	15	24	31	13	4	6	6	3	7	2
相双	0	0	0	0	0	0	4	2	21	31	13	15	44	23	38	77	180	163	143	68	73	40	16	21	6	7	3
いわき市	1	0	1	1	0	8	11	12	16	65	54	50	46	47	103	149	216	357	393	240	158	143	112	63	37	9	3
07/08	1	0	2	1	5	23	34	27	69	175	240	378	430	316	570	843	1392	1883	1851	1059	932	725	554	421	336	135	95
06/07	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	28	35	70	259	403	683	945	989	1375	2012	2697	2850	2669	1745	697
05/06	0	0	0	0	2	4	11	30	81	141	181	442	508	708	1041	1643	2092	1870	1327	1043	714	478	373	373	225	159	68
週	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	合計	
県北	38	31	30	28	7	10	5	9	8	11	9	6	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	2,560	
郡山市	40	28	36	10	6	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1,966	
県中	5	2	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,566	
県南	2	2	0	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,528	
会津	33	31	20	17	10	35	21	11	7	12	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,896	
南会津	2	2	4	9	7	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	196	
相双	2	4	4	2	0	0	3	1	2	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1,009	
いわき市	7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,302	
07/08	129	103	100	68	30	52	32	24	21	25	16	10	2	2	0	1	1	0	0	1	2	0	2	0	0	13,118	
06/07	463	376	392	257	127	58	60	36	38	27	24	44	33	34	24	22	4	1	1	1	0	0	0	0	1	19,486	
05/06	46	60	97	92	79	81	70	39	24	13	6	2	0	3	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	14,131	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~	合計
07/08	65	222	565	662	805	1030	1322	1255	1042	902	835	1732	330	724	839	432	172	87	54	43	13,118
06/07	72	260	840	860	1087	1202	1276	1215	1259	1179	1039	4330	922	912	1130	717	477	234	263	212	19,486

(75)RSウイルス感染症



RSウイルス感染症（48小児科定点）

定点からの年間報告数は2,158例あり、前年末からの流行に引き続き、2月まで県北、郡山市、県南を中心に流行が見られた。県南ではその後も流行が見られ、年間をとって流行が続いた。また、例年より早く10月頃から県北、郡山市、県南、会津を中心に再び流行が始まった。

年齢構成では、1歳までの報告が7割以上(73.4%)を占めた。



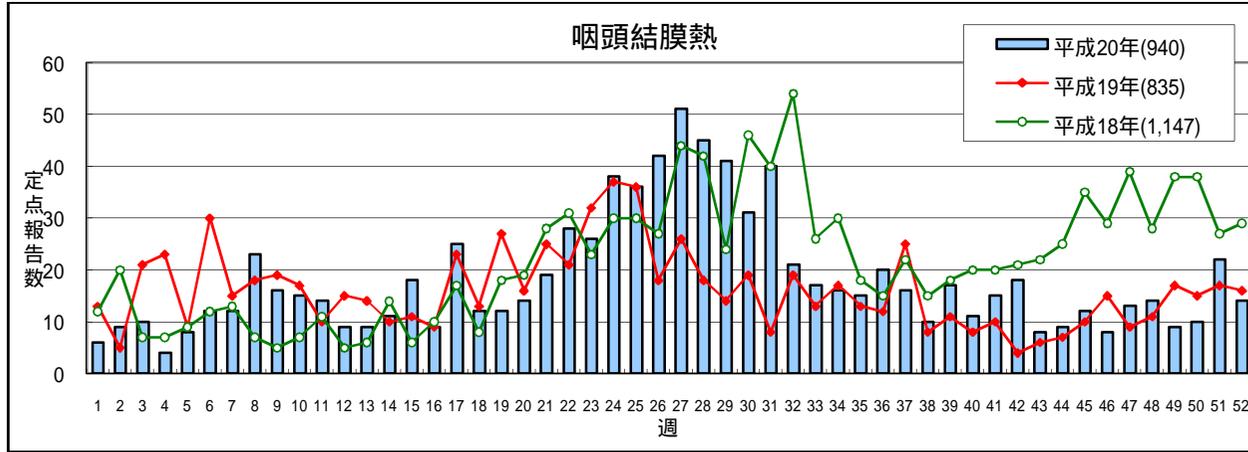
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	19	37	21	19	16	17	12	12	7	5	5	2	3	3	4	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3	1
郡山市	35	30	20	24	20	15	10	4	2	4	3	5	5	6	1	9	2	6	8	2	5	5	4	3	4	6	3
県中	1	3	1	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	29	29	15	14	23	12	11	14	20	15	13	9	8	11	13	11	15	2	13	4	9	4	10	7	11	7	11
会津	0	7	3	1	0	1	8	5	1	4	3	1	2	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	1	0	1	1	1	0	3	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	10	5	3	3	4	2	2	0	1	3	3	1	0	1	3	1	0	0	1	1	0	2	1	3	0	0	1
いわき市	0	5	0	3	1	1	1	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
H20	94	117	63	65	66	49	46	42	36	32	28	18	20	23	22	25	19	8	22	8	14	12	15	14	15	16	16
H19	90	62	70	102	92	77	45	25	48	27	13	22	26	21	31	26	21	29	16	26	28	15	29	42	33	32	24
H18	55	56	45	35	24	17	13	18	7	8	7	8	14	4	8	5	4	2	2	4	6	3	1	2	3	1	4
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	1	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	2	3	1	2	15	24	37	39	52	36	28	33	26	29	525	
郡山市	6	2	0	4	2	3	2	3	1	2	1	1	5	5	5	21	28	20	20	29	37	42	48	22	29	579	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4	0	0	2	4	3	3	1	1	32	
県南	10	5	10	3	6	2	3	4	8	2	4	4	7	10	3	6	7	5	17	26	12	19	21	25	11	570	
会津	0	0	0	0	0	0	0	1	4	3	5	0	2	3	1	1	27	13	39	17	26	15	19	2	4	223	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	2	2	3	0	0	1	0	0	2	2	1	0	3	37	
相双	0	0	2	11	5	3	1	0	1	1	0	3	3	3	2	3	2	3	2	2	0	2	0	13	10	123	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	2	10	1	9	7	12	3	69	
H20	17	7	12	18	13	9	12	8	14	10	15	10	22	25	16	49	95	83	119	138	118	120	132	101	90	2,158	
H19	36	21	12	22	14	14	7	4	15	32	39	48	31	28	17	26	29	42	40	45	67	67	104	137	131	2,100	
H18	1	5	3	1	7	0	2	0	4	4	6	3	4	1	7	14	14	12	27	28	56	90	99	105	147	996	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H20	433	447	703	317	123	63	33	10	8	9	5	6	0	1	2,158
H19	409	492	685	258	114	64	42	16	8	5	1	4	0	2	2,100

(76) 咽頭結膜熱



咽頭結膜熱 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は940例あり、前年と比較し約1割増加した。5月から6月にかけて県北、郡山市、相双を中心に流行が見られ、その後いわき市でも流行が見られた。
年齢構成では、1～5歳の報告が7割以上(74.3%)を占めた。

少ない 多い

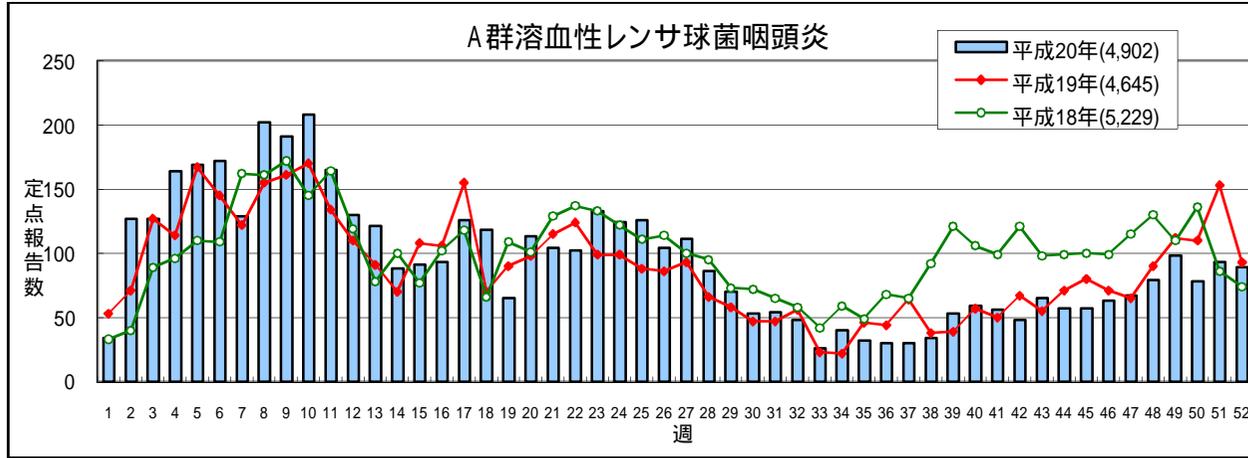
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	1	2	1	3	1	0	1	2	2	0	3	1	10	4	2	5	8	11	9	21	11	15	23
郡山市	4	6	2	1	3	6	5	6	5	4	7	5	2	6	8	3	7	3	3	3	9	5	2	6	10	9	12
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3	5	1	5	2	0
県南	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	4	1	0	0	0	2	2	0	2	1	3	2	6	5
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	2	1	5	1	2	1	3	2	2	4	1	0	1	1	0	2	7	5	4	4	1	5	8	6	4	4	3
いわき市	0	1	1	2	2	2	3	11	4	3	1	1	2	0	6	2	1	0	1	0	0	2	1	1	4	6	8
H20	6	9	10	4	8	12	12	23	16	15	14	9	9	11	18	9	25	12	12	14	19	28	26	38	36	42	51
H19	13	5	21	23	9	30	15	18	19	17	10	15	14	10	11	9	23	13	27	16	25	21	32	37	36	18	26
H18	12	20	7	7	9	12	13	7	5	7	11	5	6	14	6	10	17	8	18	19	28	31	23	30	30	27	44
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	27	17	13	16	11	8	12	9	8	11	8	6	8	13	7	1	1	3	1	1	1	1	3	5	0	327	
郡山市	9	7	4	4	1	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	1	1	0	2	2	6	3	1	0	1	188	
県中	2	4	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	43	
県南	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
会津	3	5	9	8	3	0	0	1	4	0	1	1	0	0	2	3	5	4	2	2	1	1	2	11	7	111	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	2	0	3	0	4	0	0	3	2	0	2	0	1	0	1	1	1	0	3	2	1	1	3	3	112	
いわき市	4	6	3	8	6	4	3	4	3	3	1	6	2	1	9	2	1	4	3	3	3	2	3	3	3	155	
H20	45	41	31	40	21	17	16	15	20	16	10	17	11	15	18	8	9	12	8	13	14	9	10	22	14	940	
H19	18	14	19	8	19	13	17	13	12	25	8	11	8	10	4	6	7	10	15	9	11	17	15	17	16	835	
H18	42	24	46	40	54	26	30	18	15	22	15	18	20	20	21	22	25	35	29	39	28	38	38	27	29	1,147	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H20	8	60	154	131	117	124	104	70	48	30	29	58	1	6	940
H19	4	51	161	123	108	127	95	56	33	23	15	30	3	6	835

(77) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は4,902例あった。県南、南会津を除く県内全域で継続または断続した流行が見られ、年間をとって流行が続いた。

年齢構成では、4～6歳の報告が多かった。



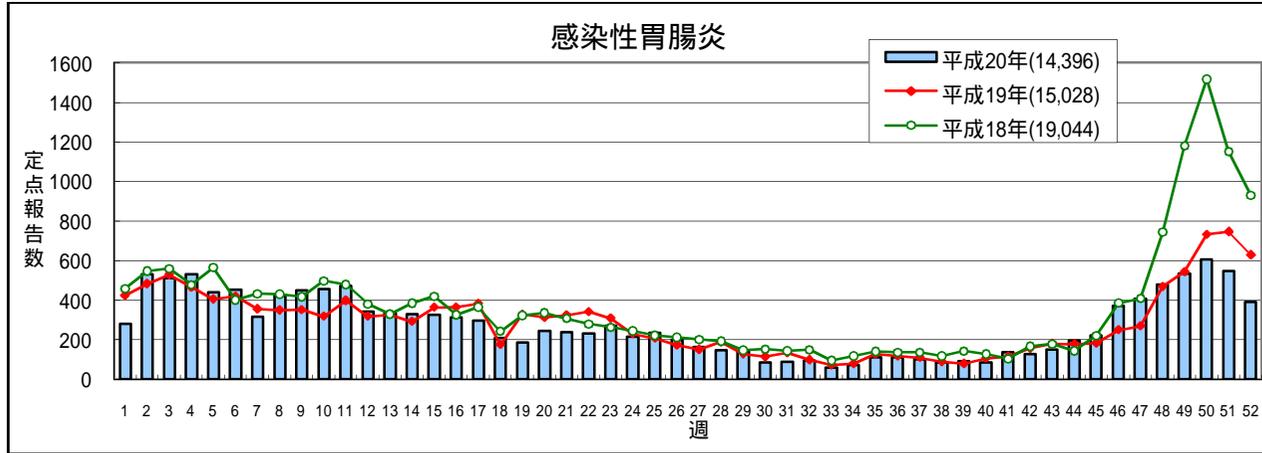
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	9	44	66	79	75	81	46	86	77	84	70	48	40	28	41	34	45	37	27	34	34	35	46	40	38	29	36
郡山市	3	7	16	16	25	29	29	42	48	48	15	24	20	12	15	14	23	24	9	14	11	16	18	10	9	8	6
県中	3	22	19	16	24	16	7	15	13	9	17	9	12	7	5	11	12	5	4	16	5	12	10	17	18	11	23
県南	1	0	1	4	0	1	0	0	1	3	2	0	1	0	2	0	2	0	3	2	4	4	3	3	4	1	1
会津	2	5	3	0	3	2	5	4	6	10	12	12	4	5	3	4	14	6	5	11	9	6	9	8	15	10	9
南会津	0	0	1	1	2	4	0	0	1	3	1	0	4	1	0	2	1	1	0	0	1	0	1	1	2	8	0
相双	14	13	8	24	19	16	22	22	16	14	17	14	6	9	10	5	5	8	9	8	8	3	4	5	4	9	3
いわき市	2	36	13	24	21	23	20	33	29	37	31	23	34	26	15	23	24	37	8	28	32	26	42	40	36	28	33
H20	34	127	127	164	169	172	129	202	191	208	165	130	121	88	91	93	126	118	65	113	104	102	133	124	126	104	111
H19	53	71	127	114	167	145	122	155	161	170	134	110	91	70	108	106	155	70	90	98	115	124	99	99	88	86	93
H18	33	40	89	96	110	109	162	161	172	145	164	119	78	100	77	102	118	66	109	101	129	137	133	122	111	114	100
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	33	23	20	24	19	4	21	12	10	10	17	23	19	13	12	28	21	18	25	16	36	28	11	24	23	1,799	
郡山市	7	6	6	7	1	4	2	3	0	2	4	5	6	11	6	11	7	4	9	5	17	13	10	6	13	676	
県中	6	5	4	2	7	1	4	3	0	3	0	6	4	6	6	8	2	4	1	6	2	12	7	5	3	445	
県南	1	3	0	1	2	2	1	2	1	0	2	0	0	6	3	3	5	2	10	19	11	17	16	26	20	196	
会津	5	6	2	5	1	1	8	3	2	5	1	1	4	2	0	1	1	2	5	4	0	7	8	8	5	269	
南会津	2	4	2	0	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	50	
相双	3	6	2	4	3	9	0	0	2	6	3	3	5	1	2	3	7	7	4	3	5	2	8	12	2	397	
いわき市	29	17	17	11	13	5	3	8	14	4	6	15	21	17	19	11	14	20	9	14	8	19	18	11	23	1,070	
H20	86	70	53	54	48	26	40	32	30	30	34	53	59	56	48	65	57	57	63	67	79	98	78	93	89	4,902	
H19	66	58	47	47	56	23	22	46	44	64	38	39	57	50	67	55	71	80	71	65	90	112	110	153	93	4,645	
H18	95	73	72	65	58	42	59	49	68	65	92	121	106	99	121	98	99	100	99	115	130	110	136	86	74	5,229	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H20	0	26	162	312	474	712	781	713	467	398	241	477	28	111	4,902
H19	7	30	188	267	433	595	720	633	415	366	261	538	49	143	4,645

(78) 感染性胃腸炎



感染性胃腸炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は14,396例あり、前年より報告数は減少した。例年どおり年末に報告数が増加した。

年齢構成では、1歳の報告が最も多く、次いで2歳、4歳、3歳、5歳の順に報告が多かった。



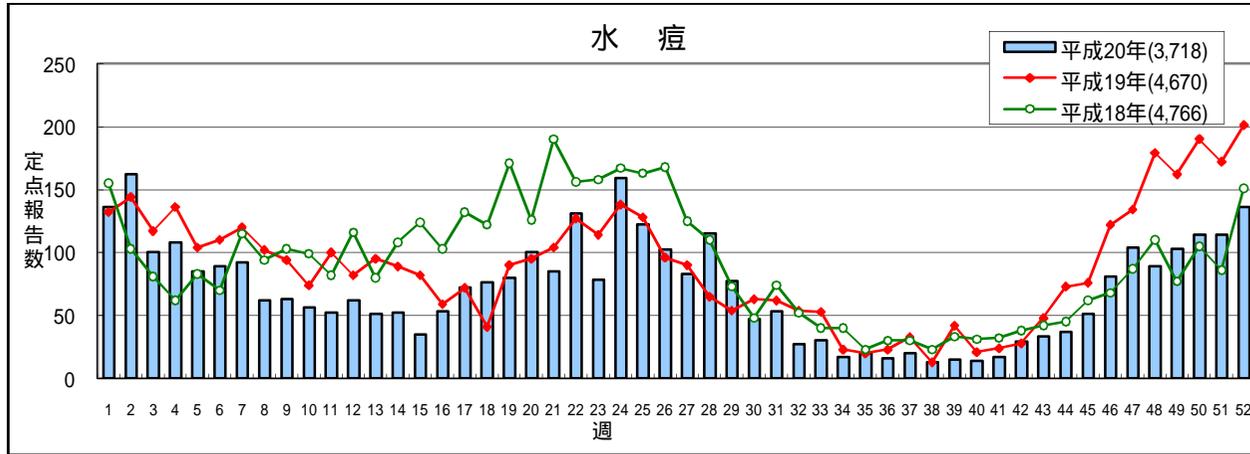
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	51	95	86	89	89	86	39	78	93	101	113	62	69	58	66	54	41	40	32	32	42	27	39	38	34	31	23
郡山市	26	53	32	34	44	36	38	41	41	34	45	64	44	72	69	68	65	50	20	35	42	33	50	44	44	33	35
県中	55	96	73	67	69	59	49	52	66	54	77	34	48	39	38	44	53	35	29	74	50	63	49	47	74	42	24
県南	38	21	42	29	21	27	17	16	27	24	32	33	15	17	14	16	15	9	15	17	8	10	16	15	7	8	9
会津	36	113	143	123	84	95	56	65	65	82	59	41	44	35	38	29	34	21	31	31	46	29	33	30	26	46	34
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	2	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0
相双	43	77	65	82	67	66	61	84	61	76	61	55	55	52	45	41	56	22	41	31	21	33	59	26	24	22	23
いわき市	32	74	69	107	66	84	54	87	95	84	82	49	56	54	56	57	32	32	15	24	29	33	24	16	24	16	14
H20	281	529	510	531	440	453	314	423	448	455	470	341	331	327	326	311	296	209	184	244	238	232	270	216	233	198	162
H19	424	484	529	466	406	420	356	350	352	319	399	319	328	293	364	365	384	176	329	313	325	342	309	231	208	174	151
H18	459	548	559	478	565	401	433	430	417	497	479	380	330	385	420	326	365	243	324	336	308	279	263	246	222	213	202
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	21	21	18	16	14	6	11	21	22	18	14	14	18	21	17	12	20	39	49	85	82	112	111	86	49	2,505	
郡山市	19	17	9	11	11	8	11	10	14	12	6	7	7	6	12	13	24	42	78	106	106	36	38	25	19	1,839	
県中	22	32	13	23	15	7	14	23	22	22	15	18	5	17	21	22	37	46	69	48	63	67	55	36	38	2,210	
県南	4	8	6	2	1	1	2	4	3	4	3	1	3	5	11	7	18	18	40	40	41	35	31	31	29	866	
会津	30	21	10	13	24	18	16	15	27	23	21	15	25	28	41	52	47	35	60	42	67	125	162	152	107	2,645	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	3	3	0	0	12	5	47	
相双	30	28	22	18	21	16	17	22	21	17	19	30	23	40	17	29	33	24	39	27	49	71	97	79	66	2,204	
いわき市	20	12	8	6	8	3	2	15	3	4	6	5	5	18	8	14	16	17	23	55	66	86	112	126	77	2,080	
H20	146	139	86	89	94	59	73	110	112	100	84	90	86	135	127	149	195	221	371	406	477	532	606	547	390	14,396	
H19	190	129	115	135	99	74	80	128	118	110	90	79	107	115	158	182	179	184	250	270	469	544	732	746	629	15,028	
H18	194	147	153	145	150	95	118	141	137	136	118	143	128	104	167	179	144	221	386	409	744	1179	1517	1151	930	19,044	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H20	98	815	2073	1442	1282	1293	1214	972	661	613	550	1432	342	1609	14,396
H19	110	937	1940	1476	1463	1316	1227	976	778	667	517	1576	319	1726	15,028

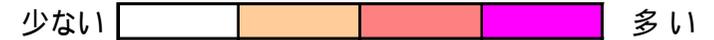
(79)水痘



水痘 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は3,718例あり、5月から7月にかけては郡山市、県南を中心に、11月から12月にかけては郡山市、会津、相双、いわき市を中心に流行が見られた。流行の季節推移は例年どおりの形となった。

年齢構成では、1～5歳の報告が多く、約8割(80.2%)を占めた。



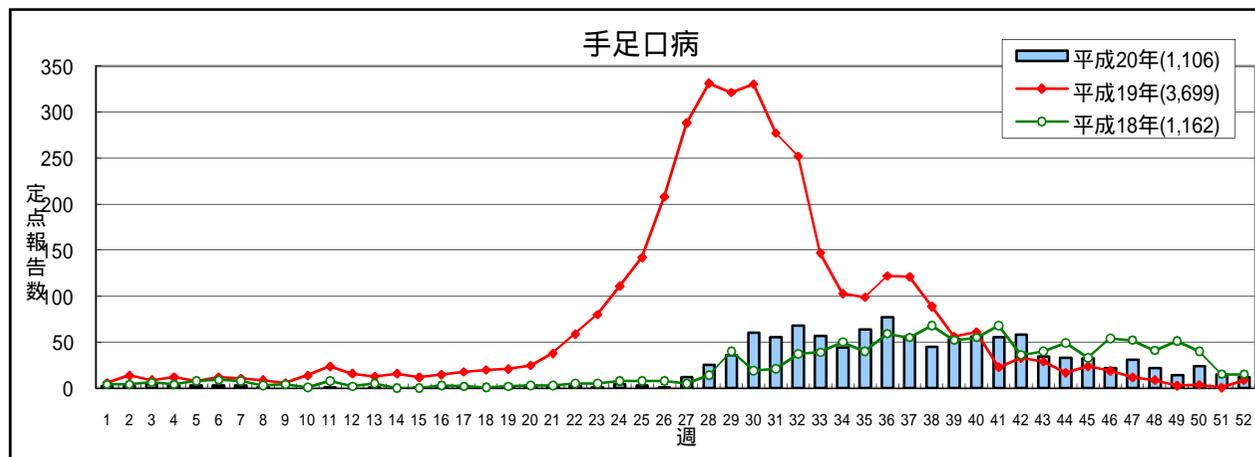
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	28	35	30	20	16	21	18	11	7	10	6	9	5	9	3	10	11	14	11	19	20	34	17	32	24	11	16
郡山市	36	44	30	34	30	24	30	20	24	16	27	24	16	15	12	15	27	18	19	22	21	24	15	22	22	25	9
県中	12	24	9	18	10	8	18	9	14	5	9	4	8	4	8	5	12	9	11	20	13	8	12	24	18	12	12
県南	8	8	4	4	5	5	3	2	0	1	0	3	0	5	0	6	7	9	9	10	4	16	11	23	22	18	9
会津	12	23	13	12	14	4	5	4	8	6	5	8	3	5	7	5	4	9	5	9	5	18	8	11	7	13	6
南会津	1	5	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2
相双	7	11	4	10	2	4	1	4	3	3	2	2	1	2	0	1	6	7	9	8	4	6	4	6	6	5	13
いわき市	32	12	10	6	8	22	17	12	7	15	3	12	18	12	5	11	5	10	16	12	17	24	11	41	23	17	16
H20	136	162	100	108	85	89	92	62	63	56	52	62	51	52	35	53	72	76	80	100	85	131	78	159	122	102	83
H19	132	144	117	136	104	110	120	102	94	74	100	82	95	89	82	59	72	41	90	95	104	127	114	138	128	96	90
H18	155	103	81	62	83	70	115	94	103	99	82	116	80	108	124	103	132	122	171	126	190	156	158	167	163	168	125
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	11	11	6	8	4	3	1	7	3	6	4	5	3	6	5	7	8	7	13	7	15	11	8	20	20	646	
郡山市	24	14	9	12	8	7	7	1	5	2	2	3	4	2	3	4	8	13	16	26	23	24	24	17	20	899	
県中	13	5	10	2	4	5	4	0	0	0	0	1	0	0	5	4	10	2	27	26	19	7	15	2	14	491	
県南	10	10	2	11	1	5	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	8	4	8	2	3	2	7	2	272	
会津	16	13	9	4	5	4	2	3	4	3	2	1	1	1	13	1	5	9	11	19	10	15	16	19	21	436	
南会津	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	2	1	7	1	3	5	4	48	
相双	10	10	5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	3	2	6	6	3	5	4	8	17	22	17	25	279	
いわき市	31	14	6	15	5	4	1	8	3	7	2	3	2	5	1	10	0	9	3	13	5	25	24	27	30	647	
H20	115	77	47	53	27	30	17	20	16	20	13	15	14	17	29	33	37	51	81	104	89	103	114	114	136	3,718	
H19	65	54	63	62	54	53	23	20	23	33	13	42	21	24	28	48	73	76	122	134	179	162	190	172	201	4,670	
H18	110	73	48	74	52	40	40	23	30	30	23	33	31	32	38	42	45	62	68	87	110	77	105	86	151	4,766	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H20	68	227	716	688	613	603	363	176	84	48	42	57	4	29	3,718
H19	104	329	890	830	765	684	494	232	103	78	45	78	11	27	4,670

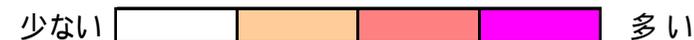
(80)手足口病



手足口病 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,106例あり、前年の3分の1以下の報告数であった。8月から10月にかけて県北、会津、いわき市を中心に流行が見られた。

年齢構成では、1～4歳の報告が多く、約7割(68.8%)を占めた。



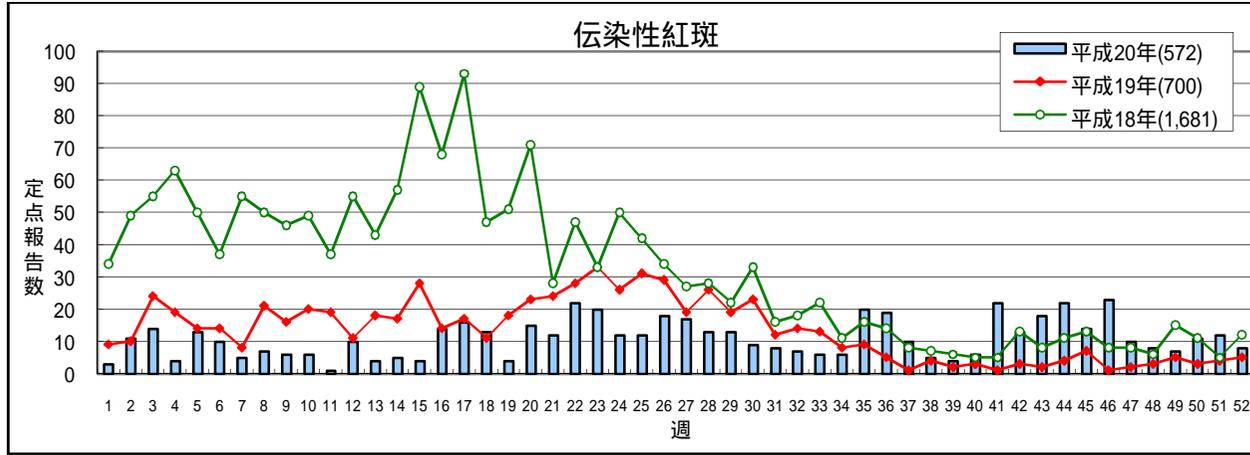
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
郡山市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	2
県中	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
県南	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
会津	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	0	0
いわき市	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
H20	2	2	4	3	3	3	3	1	0	0	1	0	1	0	1	2	2	1	1	3	2	2	1	4	3	1	12
H19	6	14	9	12	8	12	11	9	6	14	24	16	13	16	12	15	18	20	21	25	38	59	80	111	142	208	288
H18	4	4	6	4	8	9	8	3	4	1	8	2	5	0	0	3	2	1	2	3	3	5	5	8	8	8	5
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	6	14	23	10	15	10	7	10	12	13	12	14	11	8	14	2	3	4	8	3	2	2	0	4	1	219	
郡山市	2	5	3	3	4	6	8	10	12	4	4	2	2	1	2	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	82	
県中	0	0	2	0	1	6	1	7	6	2	3	6	6	4	4	4	1	4	1	0	0	0	0	0	1	68	
県南	5	9	3	8	2	0	0	2	1	2	2	2	2	6	3	0	1	0	0	0	2	3	0	0	0	58	
会津	1	3	5	9	21	15	13	18	20	15	13	12	17	16	23	7	5	10	3	6	9	3	14	6	7	280	
南会津	0	0	1	0	0	3	1	0	0	0	5	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	
相双	8	2	1	0	1	1	0	1	4	2	0	4	1	4	1	3	1	0	0	1	0	0	0	1	1	45	
いわき市	3	3	22	25	24	16	14	16	22	18	6	8	14	16	11	17	21	13	10	18	9	6	10	4	2	336	
H20	25	36	60	55	68	57	44	64	77	56	45	53	56	55	58	34	33	32	22	31	22	14	24	15	12	1,106	
H19	331	321	330	277	252	147	103	99	122	121	89	56	61	23	33	29	17	24	19	12	9	3	4	1	9	3,699	
H18	14	40	19	21	37	39	50	40	59	55	68	52	55	68	36	40	49	33	54	52	41	51	40	15	15	1,162	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H20	7	46	260	211	158	132	129	62	33	20	18	22	1	7	1,106
H19	17	169	861	732	570	496	344	202	95	79	41	71	7	15	3,699

(81) 伝染性紅斑



伝染性紅斑 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は572例あり、相双では6月以降12月まで流行が続いた。

年齢構成では、4歳～6歳の報告が多く、約4割(43.0%)を占めた。

少ない 多い

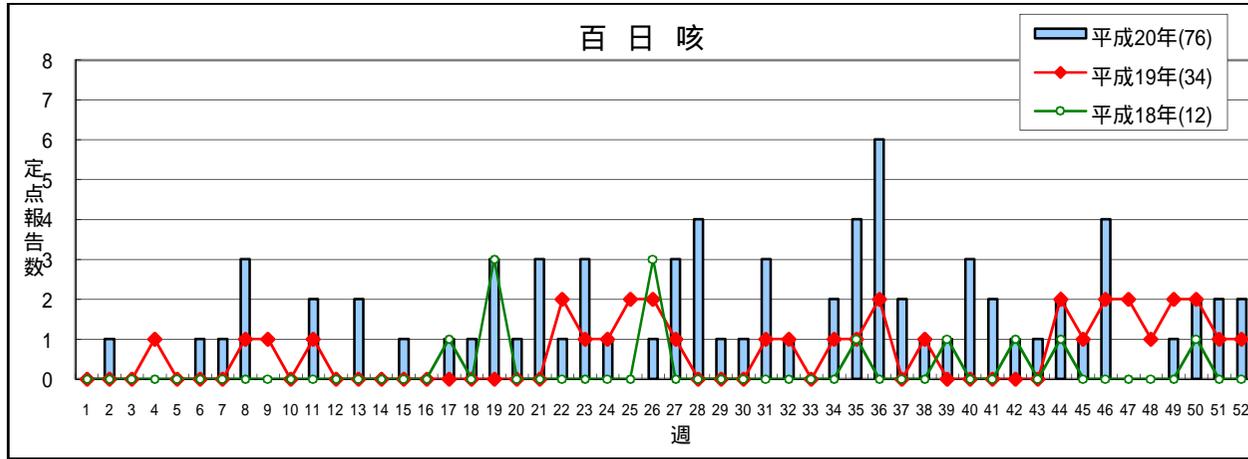
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	1	2	0	2	2	2	1	3	0	0	2	2	1	0	6	5	3	1	3	4	4	3	6	5	8	5
郡山市	2	4	9	3	5	4	3	2	1	3	0	3	2	3	2	4	4	4	0	2	0	3	0	1	0	1	1
県中	0	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1
県南	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0
会津	0	2	2	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
相双	0	0	0	1	3	1	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	4	4	1	8	5	9	10	3	5	6	8
いわき市	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	2	0	1	1	2	3	3	5	2	2	3	1
H20	3	11	14	4	13	10	5	7	6	6	1	10	4	5	4	14	16	13	4	15	12	22	20	12	12	18	17
H19	9	10	24	19	14	14	8	21	16	20	19	11	18	17	28	14	17	11	18	23	24	28	33	26	31	29	19
H18	34	49	55	63	50	37	55	50	46	49	37	55	43	57	89	68	93	47	51	71	28	47	33	50	42	34	27
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	5	1	0	0	0	1	7	1	1	2	0	2	5	0	0	1	1	0	1	1	1	1	4	1		108
郡山市	0	0	0	0	1	1	1	0	11	1	0	0	0	1	0	2	0	2	3	3	1	1	0	0	3		97
県中	1	1	0	1	0	0	0	1	4	2	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0		28
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		9
会津	0	2	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0		23
南会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		6
相双	10	3	3	6	5	5	3	6	3	6	3	4	4	9	7	14	21	9	16	5	3	4	9	6	4		241
いわき市	2	2	4	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	4	3	2	0	2	1	1	1	1	0	1	0		60
H20	13	13	9	8	7	6	6	20	19	10	5	4	6	22	13	18	22	14	23	10	8	7	11	12	8		572
H19	26	19	23	12	14	13	8	9	5	1	4	2	3	1	3	2	4	7	1	2	3	5	3	4	5		700
H18	28	22	33	16	18	22	11	16	14	8	7	6	5	5	13	8	11	13	8	8	6	15	11	5	12		1,681

年齢構成

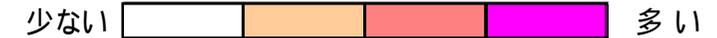
	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H20	3	24	37	41	45	79	94	73	53	52	35	33	1	2	572
H19	2	18	39	39	87	99	149	81	59	46	41	35	0	5	700

(83)百日咳



百日咳 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は76例あった。
 年齢構成では、2歳までの報告が約3割(32.8%)、10歳以上の報告が約4割(43.4%)と、前年と比較し10歳以上の割合が増加した。



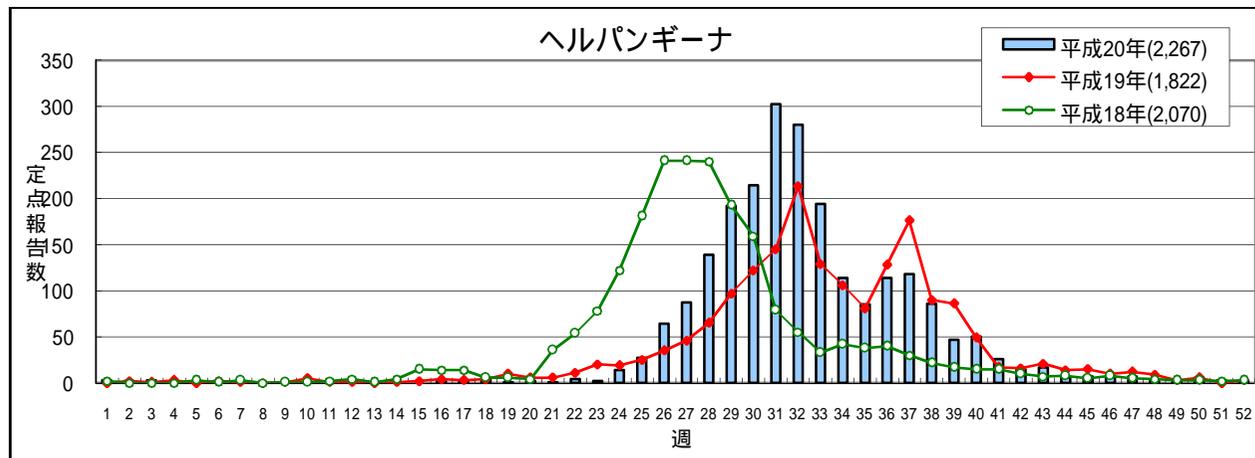
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	1	1	0	0	1
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H20	0	1	0	0	0	1	1	3	0	0	2	0	2	0	1	0	1	1	3	1	3	1	3	1	0	1	3
H19	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	2	1
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	13	
郡山市	1	0	1	3	1	0	1	1	4	1	1	0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	1	30	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
会津	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
相双	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	16	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H20	4	1	1	3	1	0	2	4	6	2	1	1	3	2	1	1	2	1	4	0	0	1	2	2	2	76	
H19	0	0	0	1	1	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	2	2	1	2	2	1	1	34	
H18	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	12	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H20	6	9	7	3	2	7	3	1	1	2	2	19	3	11	76
H19	5	8	2	7	2	2	0	1	0	0	1	5	0	1	34

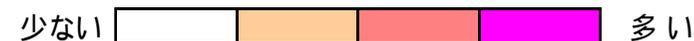
(84)ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナ (48小児科定点)

定点からの年間報告数は2,267例あり、7月下旬から相双、いわき市を中心に流行が始まり、その後県内全域に流行が拡大し、10月まで続いた。

年齢構成では、1歳～2歳の報告が多く、約半数(49.6%)を占めた。



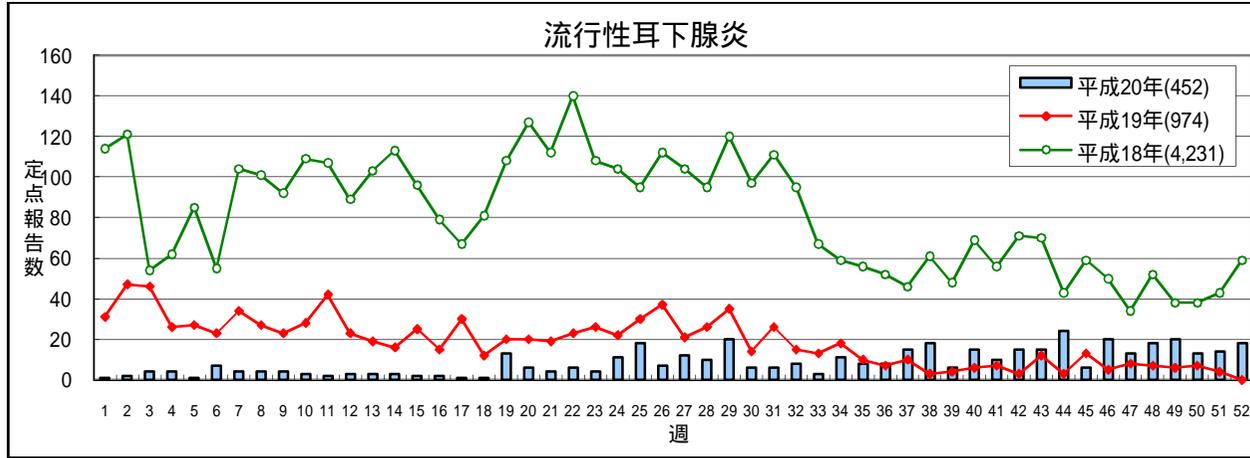
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3	5	5
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3	5
県中	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4	5
県南	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	10
会津	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
南会津	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	27	28
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	5	0	2	1	3	1	10	13	25	30
H20	3	2	3	1	1	2	2	0	0	1	0	2	1	1	0	3	3	6	1	2	1	4	2	14	27	64	87
H19	0	2	1	3	0	2	1	0	1	5	1	1	0	1	2	4	3	4	10	6	6	11	20	19	25	35	46
H18	2	0	0	0	3	1	3	0	1	1	2	4	1	4	15	14	14	6	6	4	36	54	78	122	181	241	241
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	4	11	11	43	33	36	26	26	22	23	19	11	8	2	1	2	1	1	0	1	0	0	3	0	0	311	
郡山市	9	30	35	30	40	16	20	14	13	14	26	8	13	4	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	289	
県中	6	15	28	19	15	8	5	2	4	2	3	0	2	1	0	2	1	1	0	3	0	0	1	0	0	131	
県南	12	8	11	19	21	7	7	5	10	9	8	6	4	0	0	0	0	3	1	1	1	1	0	0	0	149	
会津	16	23	38	51	81	70	31	15	21	25	10	3	7	2	4	2	0	1	4	0	0	0	0	1	0	413	
南会津	0	0	4	7	4	11	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	36	
相双	40	39	24	26	19	15	4	2	3	3	6	4	7	13	6	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	284	
いわき市	52	66	63	107	67	31	20	21	41	42	12	12	9	4	2	3	0	0	1	1	1	0	1	2	2	654	
H20	139	192	214	302	280	194	114	85	114	118	86	47	50	26	15	17	6	7	7	7	2	1	6	3	2	2,267	
H19	65	97	122	145	213	129	106	81	128	176	90	86	49	17	16	21	14	15	10	12	9	3	6	0	3	1,822	
H18	240	193	159	79	55	33	42	38	40	30	22	17	15	15	10	7	8	5	8	5	4	3	3	2	3	2,070	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H20	18	184	630	495	366	267	153	64	34	20	14	21	0	1	2,267
H19	15	170	529	362	274	194	137	56	30	24	10	18	1	2	1,822

(85) 流行性耳下腺炎



流行性耳下腺炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は452例あり、前年の2分の1以下の報告数であった。

年齢構成では、5歳をピークに2～7歳の報告が多く、約8割(78.8%)を占めた。



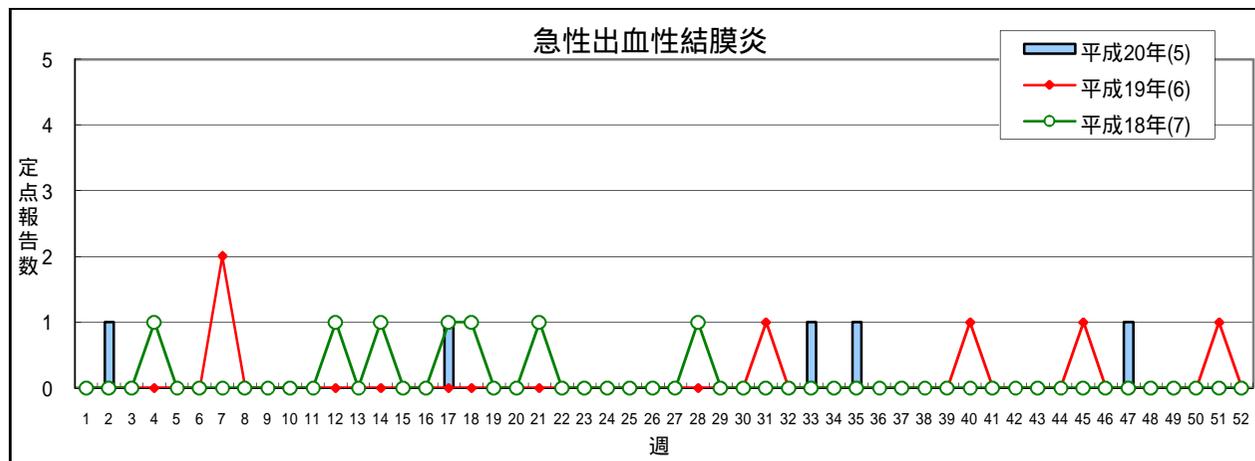
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北	0	1	1	2	0	2	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	8	3	3	3	3	3	9	3	6	
郡山市	0	1	1	1	1	2	1	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	3	1	1	1	
県中	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	
県南	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	
会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	1	0	0	2	0	2	2	1	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	
いわき市	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	2	0	1	4	1	2	
H20	1	2	4	4	1	7	4	4	4	3	2	3	3	3	2	2	1	1	13	6	4	6	4	11	18	7	12	
H19	31	47	46	26	27	23	34	27	23	28	42	23	19	16	25	15	30	12	20	20	19	23	26	22	30	37	21	
H18	114	121	54	62	85	55	104	101	92	109	107	89	103	113	96	79	67	81	108	127	112	140	108	104	95	112	104	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計		
県北	4	6	3	1	2	2	4	4	4	5	7	2	7	3	5	2	2	2	2	0	1	1	2	0	2		124	
郡山市	0	2	0	0	1	0	0	2	0	1	2	0	1	0	2	1	0	0	1	0	2	2	0	3	2		43	
県中	1	0	0	0	2	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0		23	
県南	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1		17	
会津	1	8	0	2	1	0	4	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		28	
南会津	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		3	
相双	0	1	2	0	2	1	0	1	1	2	1	0	0	2	4	5	9	3	1	4	5	6	6	5	5		84	
いわき市	4	3	1	1	0	0	1	0	1	4	7	4	4	5	2	7	13	1	14	7	10	11	4	4	6		130	
H20	10	20	6	6	8	3	11	8	8	15	18	6	15	10	15	15	24	6	20	13	18	20	13	14	18		452	
H19	26	35	14	26	15	13	18	10	7	10	3	4	6	7	3	12	3	13	5	8	7	6	7	4	0		974	
H18	95	120	97	111	95	67	59	56	52	46	61	48	69	56	71	70	43	59	50	34	52	38	38	43	59		4,231	

年齢構成

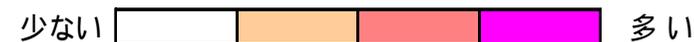
	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H20	1	0	20	42	57	61	85	66	45	28	20	21	3	3	452
H19	0	4	44	96	144	193	165	102	83	53	28	54	1	7	974

(87)急性出血性結膜炎



急性出血性結膜炎（12眼科定点）

定点からの年間報告数は5例あり、年間をとおして散発事例のみであった。



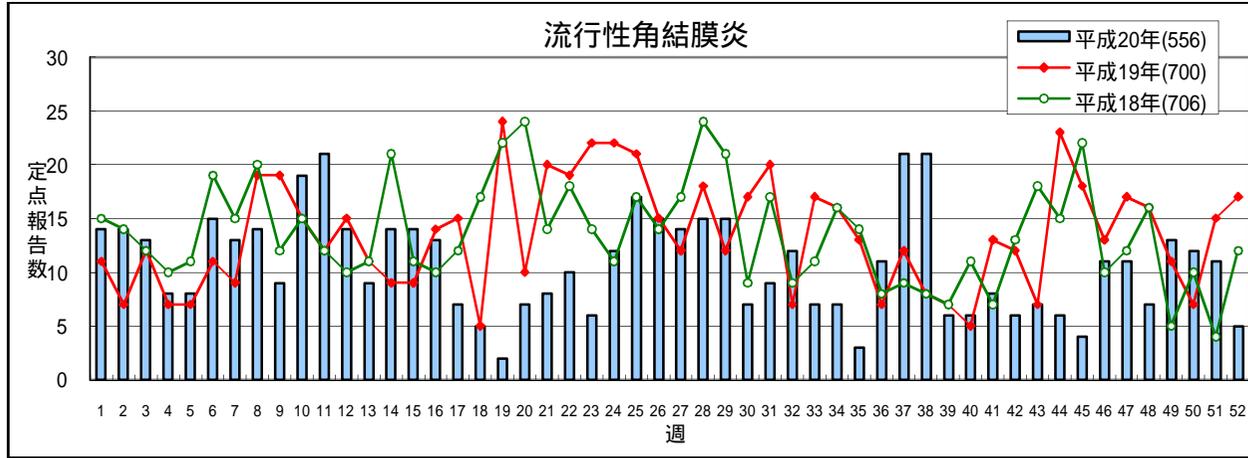
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H20	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
H20	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	
H19	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	6	
H18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	5
H19	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	6

(88) 流行性角結膜炎



流行性角結膜炎 (12眼科定点)

定点からの年間報告数は556例あり、年間をとって流行は見られなかった。

年齢構成では、20歳以上の報告が、約8割(80.2%)を占めた。



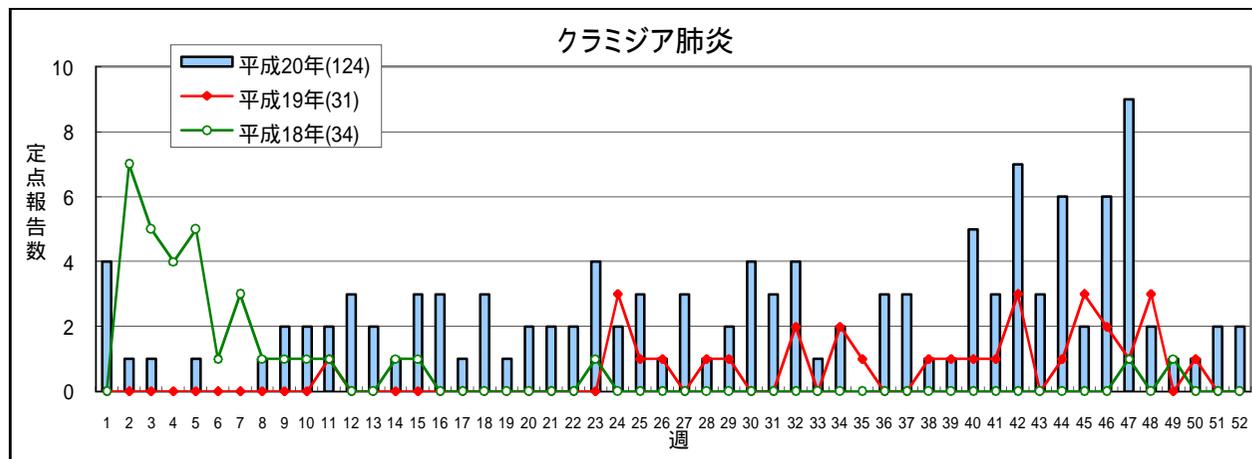
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	3	0	2	1	0	7	2	1	2	4	5	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	2	3	5	7
郡山市	5	3	3	2	4	1	5	5	0	4	4	3	2	5	6	5	3	1	0	4	5	3	1	3	4	6	6
県中	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
県南	1	1	2	0	1	2	2	1	1	0	1	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
会津	2	3	0	2	0	0	0	1	0	3	5	3	2	1	1	5	0	2	0	0	0	2	1	2	6	3	1
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	1	3	2	2	1	0	0	2	2	3	2	0	1	1	1	0	0	0	0	2	3	4	0	1	1	0	0
いわき市	1	3	4	1	2	5	4	4	3	5	3	3	0	3	5	0	4	2	2	1	0	1	0	2	2	1	0
H20	14	14	13	8	8	15	13	14	9	19	21	14	9	14	14	13	7	5	2	7	8	10	6	12	17	15	14
H19	11	7	12	7	7	11	9	19	19	15	12	15	11	9	9	14	15	5	24	10	20	19	22	22	21	15	12
H18	15	14	12	10	11	19	15	20	12	15	12	10	11	21	11	10	12	17	22	24	14	18	14	11	17	14	17
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	4	3	1	1	0	0	0	1	3	9	7	4	3	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	93	
郡山市	8	7	4	3	5	3	3	1	2	9	4	2	1	3	3	2	2	1	2	4	2	4	7	3	1	179	
県中	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	
県南	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4	0	0	1	0	2	1	33	
会津	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0	3	0	0	1	3	2	4	1	2	4	4	6	2	1	1	84	
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
相双	1	1	1	2	1	0	0	0	1	3	1	0	2	2	0	1	0	2	1	1	0	1	0	0	1	54	
いわき市	1	3	1	3	4	1	2	1	4	0	6	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	1	1	5	1	100	
H20	15	15	7	9	12	7	7	3	11	21	21	6	6	8	6	7	6	4	11	11	7	13	12	11	5	556	
H19	18	12	17	20	7	17	16	13	7	12	8	7	5	13	12	7	23	18	13	17	16	11	7	15	17	700	
H18	24	21	9	17	9	11	16	14	8	9	8	7	11	7	13	18	15	22	10	12	16	5	10	4	12	706	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~	合計
H20	3	1	4	7	10	7	7	8	1	15	4	18	25	100	148	75	54	37	32	556
H19	0	0	8	9	14	21	15	11	9	9	3	21	31	146	178	89	70	41	25	700

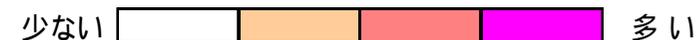
(93) クラミジア肺炎(オウム病を除く)



クラミジア肺炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は124例あった。また、すべて郡山市からの報告であった。

年齢構成では、60歳以上が約半数(55.6%)を占めた。



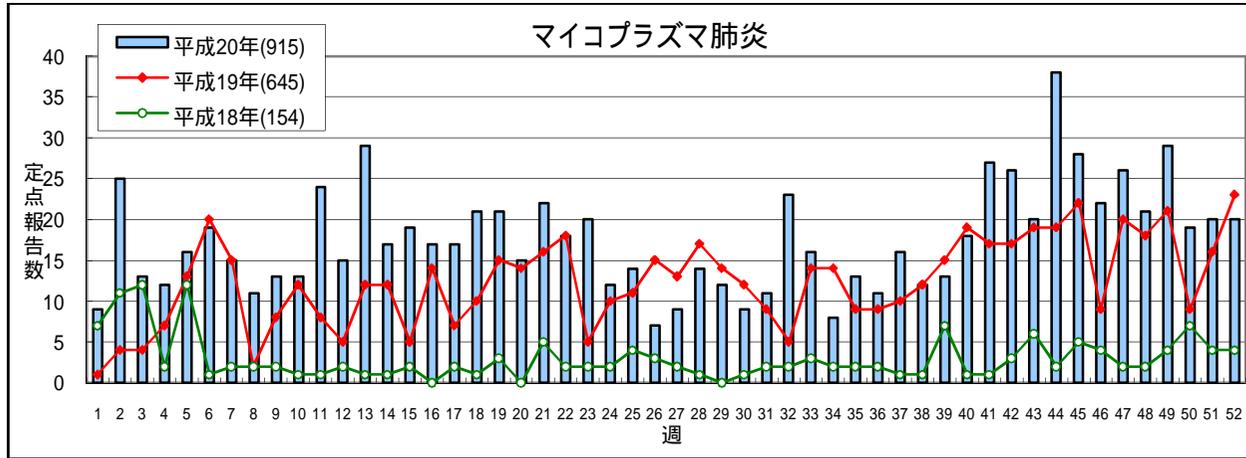
平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	4	1	1	0	1	0	0	1	2	2	2	3	2	1	3	3	1	3	1	2	2	2	4	2	3	1	3
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H20	4	1	1	0	1	0	0	1	2	2	2	3	2	1	3	3	1	3	1	2	2	2	4	2	3	1	3
H19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0
H18	0	7	5	4	5	1	3	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	1	2	4	3	4	1	2	0	3	3	1	1	5	3	7	3	6	2	6	9	2	1	1	2	2	124	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H20	1	2	4	3	4	1	2	0	3	3	1	1	5	3	7	3	6	2	6	9	2	1	1	2	2	124	
H19	1	1	0	0	2	0	2	1	0	0	1	1	1	1	3	0	1	3	2	1	3	0	1	0	0	31	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	34	

年齢構成

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H20	0	0	4	5	0	4	7	4	8	3	1	6	13	12	14	43	124
H19	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	3	1	2	4	16	31

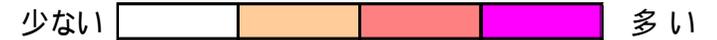
(96) マイコプラズマ肺炎



マイコプラズマ肺炎（7基幹定点）

定点からの年間報告数は915例あった。報告数のほとんどが、県北、郡山市、南会津、いわき市からのものであり、いわき市の報告数は全体の約4割(44.3%)、南会津は約3割(32.5%)を占めた。

年齢構成では、14歳以下の報告が約8割(84.3%)を占



平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	1	0	1	2	1	2	2	1	2	1	1	2	2	2	2	1	1	0	0	1	1	1	2	2	1	1
郡山市	1	8	0	1	1	6	2	3	8	1	4	0	5	2	0	1	1	2	0	2	1	1	4	2	0	0	1
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	5	11	9	3	8	7	5	3	3	7	10	9	12	9	12	7	10	12	13	8	13	10	9	5	11	5	5
H20	9	25	13	12	16	19	15	11	13	13	24	15	29	17	19	17	17	21	21	15	22	18	20	12	14	7	9
H19	1	4	4	7	13	20	15	2	8	12	8	5	12	12	5	14	7	10	15	14	16	18	5	10	11	15	13
H18	7	11	12	2	12	1	2	2	2	1	1	2	1	1	2	0	2	1	3	0	5	2	2	2	4	3	2
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	2	1	1	0	1	1	0	2	2	2	1	3	2	3	3	0	2	3	2	2	3	3	4	3	2		82
郡山市	2	2	0	2	5	3	1	0	3	3	3	3	4	8	0	2	4	1	2	1	1	3	3	2	2		117
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	3	2	6	7	7	7	2	3	3	6	3	2	3	9	17	13	17	12	8	8	7	11	5	7	2		297
いわき市	1	1	1	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	14
いわき市	6	6	1	2	10	5	5	6	3	3	5	5	9	7	6	5	13	12	10	15	9	12	7	8	14		405
H20	14	12	9	11	23	16	8	13	11	16	12	13	18	27	26	20	38	28	22	26	21	29	19	20	20		915
H19	17	14	12	9	5	14	14	9	9	10	12	15	19	17	17	19	19	22	9	20	18	21	9	16	23		645
H18	1	0	1	2	2	3	2	2	2	1	1	7	1	1	3	6	2	5	4	2	2	4	7	4	4		154

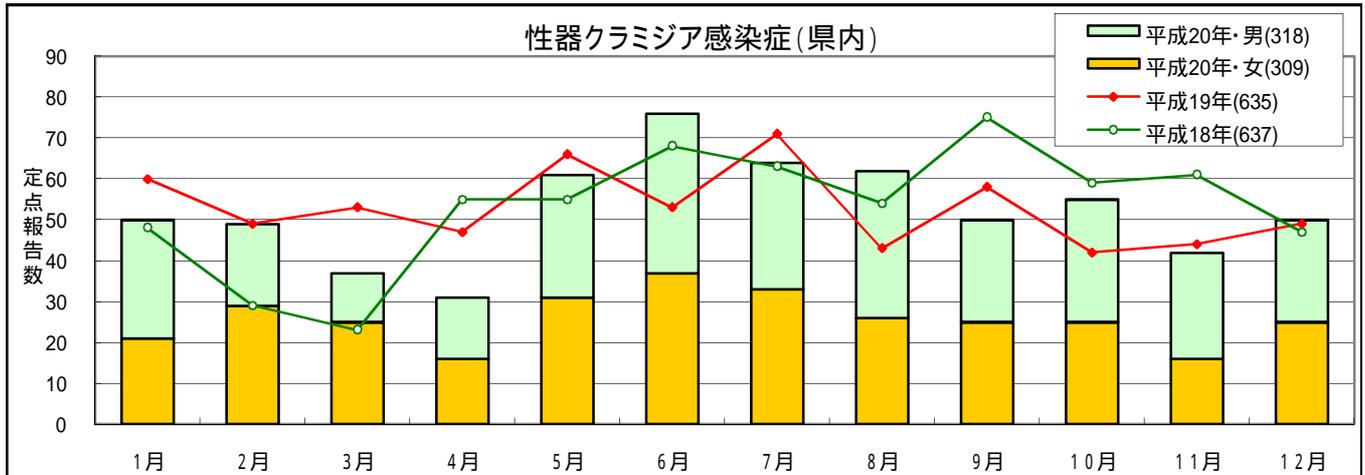
年齢構成

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H20	16	338	282	136	17	16	18	16	10	4	7	7	4	2	1	41	915
H19	11	254	217	88	12	6	11	8	3	1	1	2	1	2	4	24	645

(89) 性器クラミジア感染症

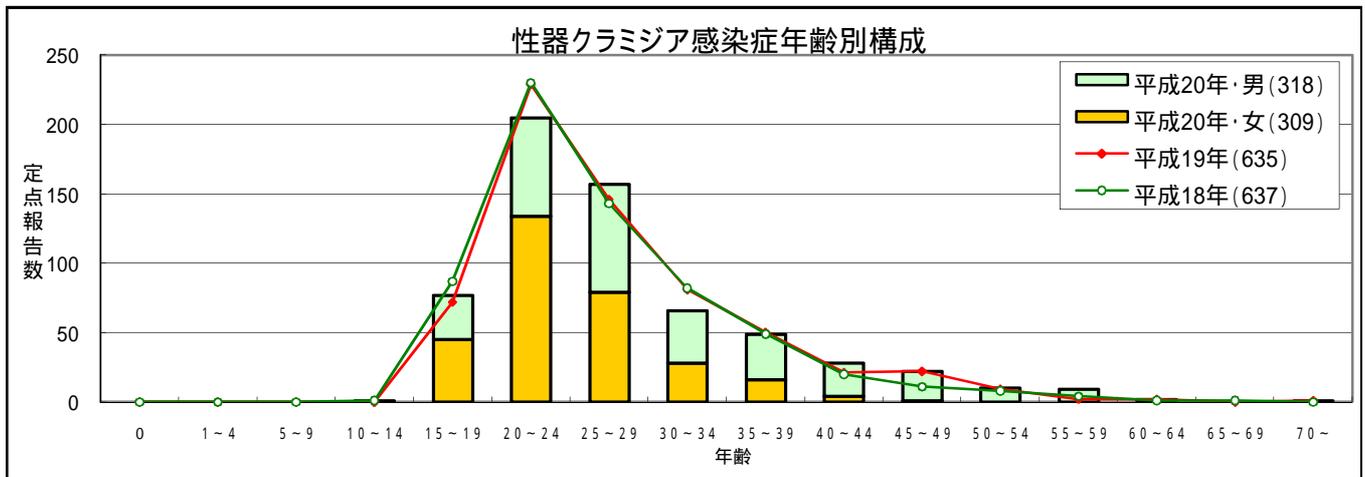
(16STD定点)

定点からの年間報告数は627例(男318例、女309例)あり、20～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～29歳の感染者の占める割合が高かった。

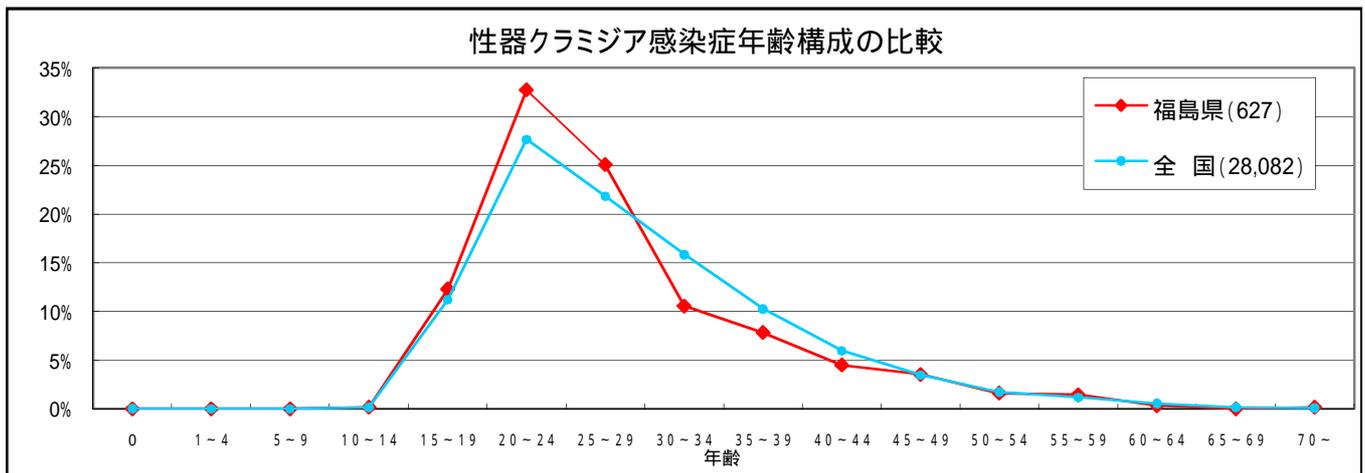


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成20年・男(318)	29	20	12	15	30	39	31	36	25	30	26	25	318
平成20年・女(309)	21	29	25	16	31	37	33	26	25	25	16	25	309
平成20年(627)	50	49	37	31	61	76	64	62	50	55	42	50	627
平成19年(635)	60	49	53	47	66	53	71	43	58	42	44	49	635
平成18年(637)	48	29	23	55	55	68	63	54	75	59	61	47	637

平成18～20年 県内の年齢別構成

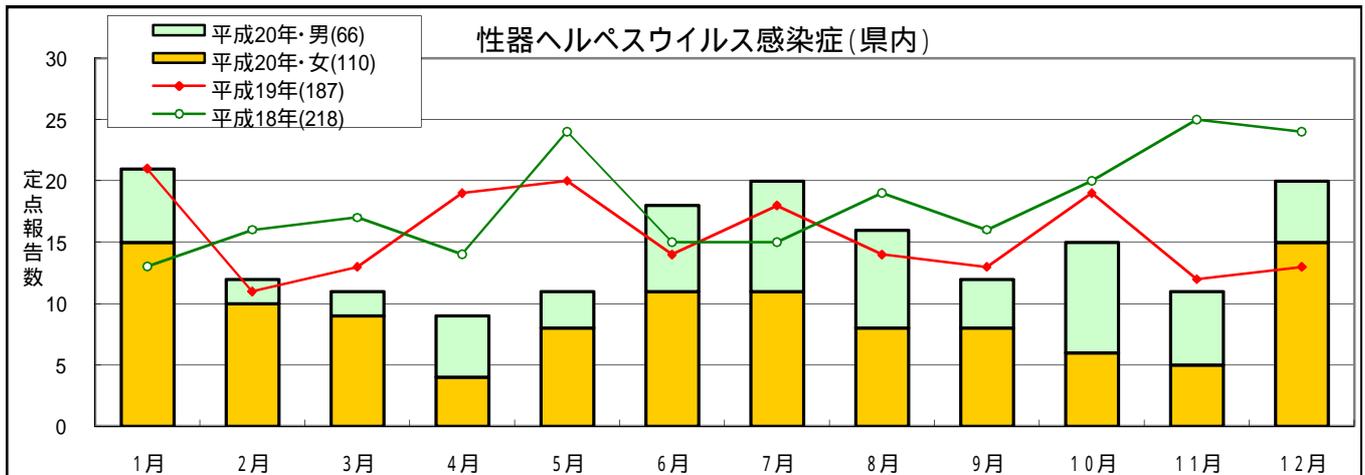


平成20年 年齢構成の比較



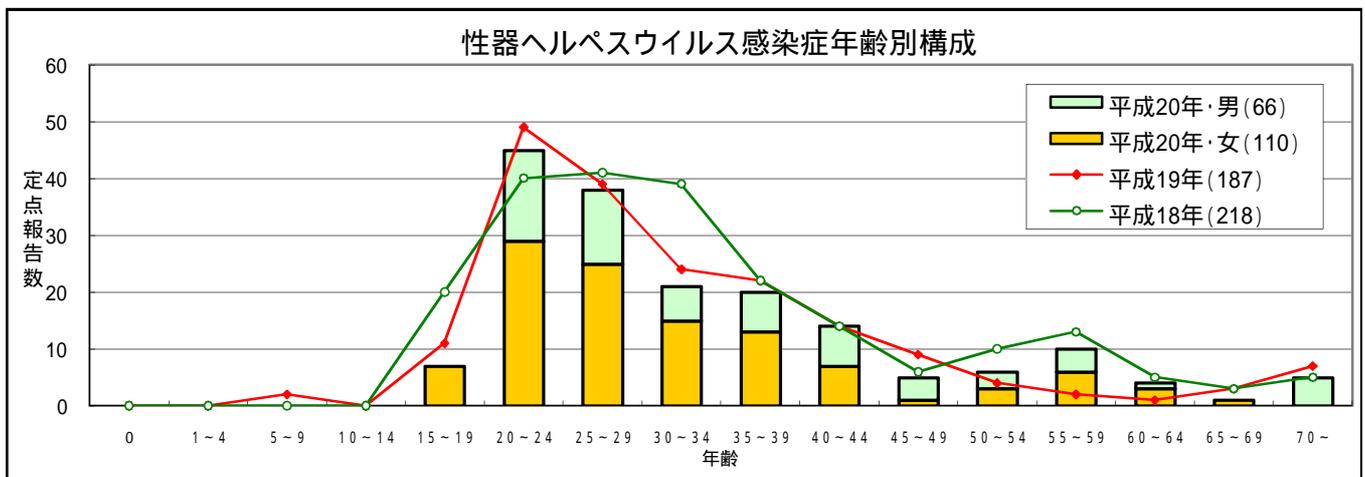
(90) 性器ヘルペスウイルス感染症 (16STD定点)

定点からの年間報告数は176例(男66例、女110例)あり、20～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～29歳の感染者の占める割合が高かった。

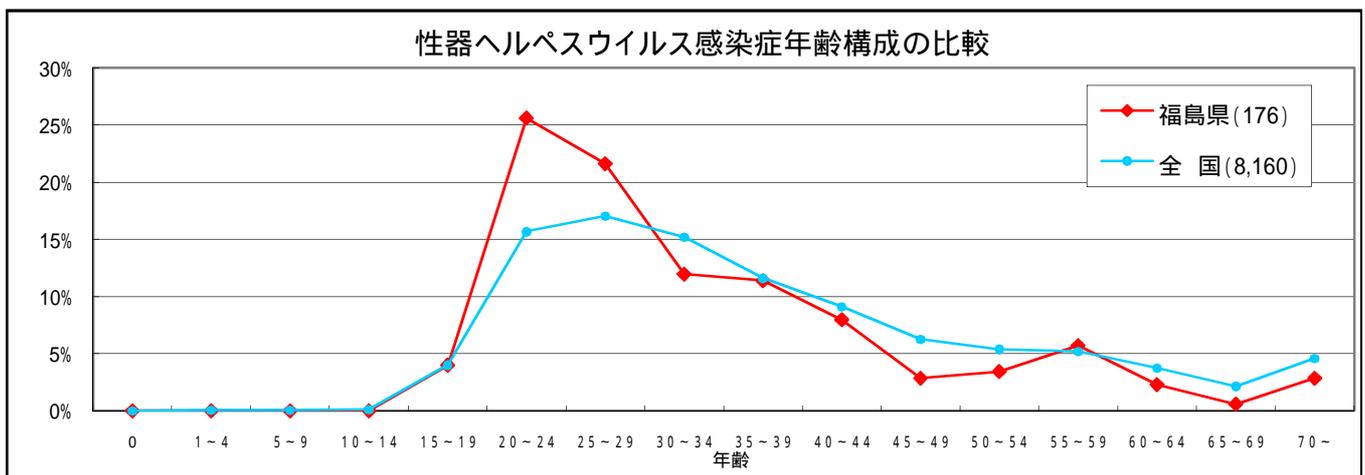


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成20年・男(66)	6	2	2	5	3	7	9	8	4	9	6	5	66
平成20年・女(110)	15	10	9	4	8	11	11	8	8	6	5	15	110
平成20年(176)	21	12	11	9	11	18	20	16	12	15	11	20	176
平成19年(187)	21	11	13	19	20	14	18	14	13	19	12	13	187
平成18年(218)	13	16	17	14	24	15	15	19	16	20	25	24	218

平成18～20年 県内の年齢別構成



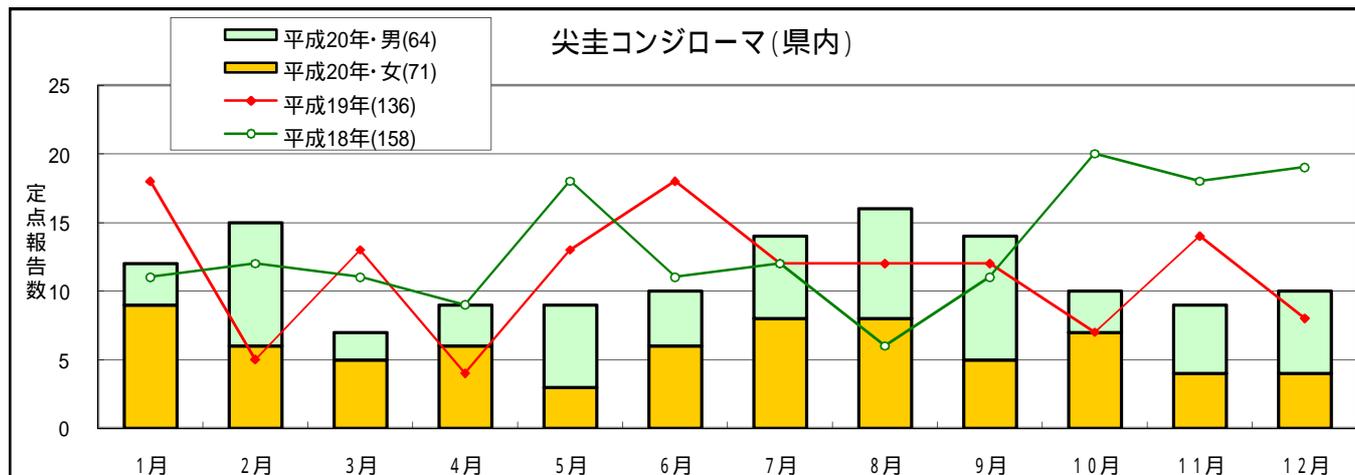
平成20年 年齢構成の比較



(91)尖圭コンジローマ

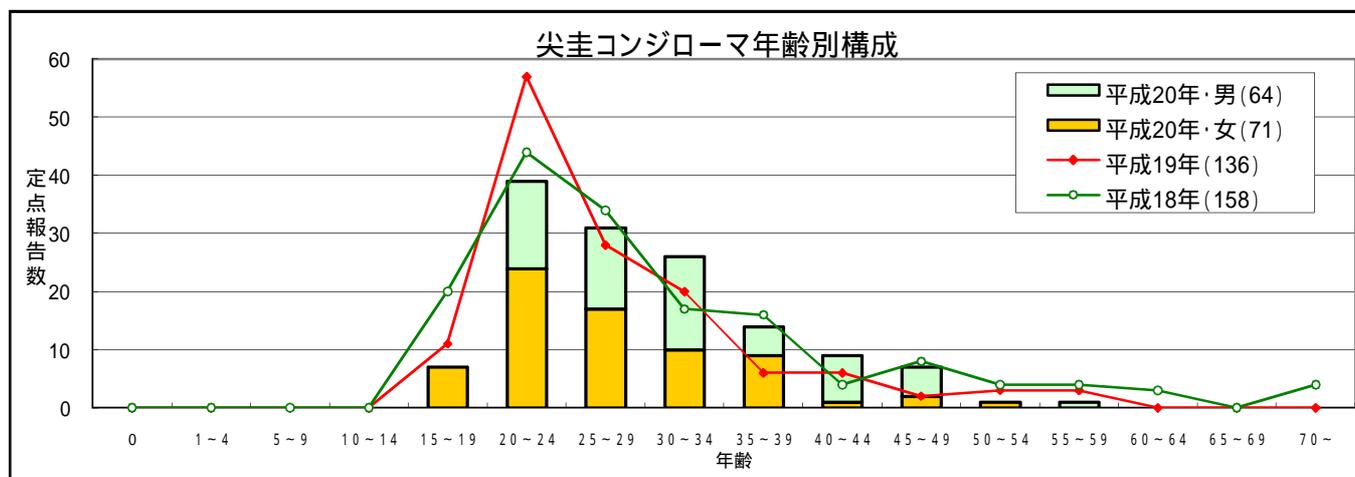
(16STD定点)

定点からの年間報告数は135例(男64例、女71例)あり、20～34歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～34歳の感染者の占める割合が高かった。

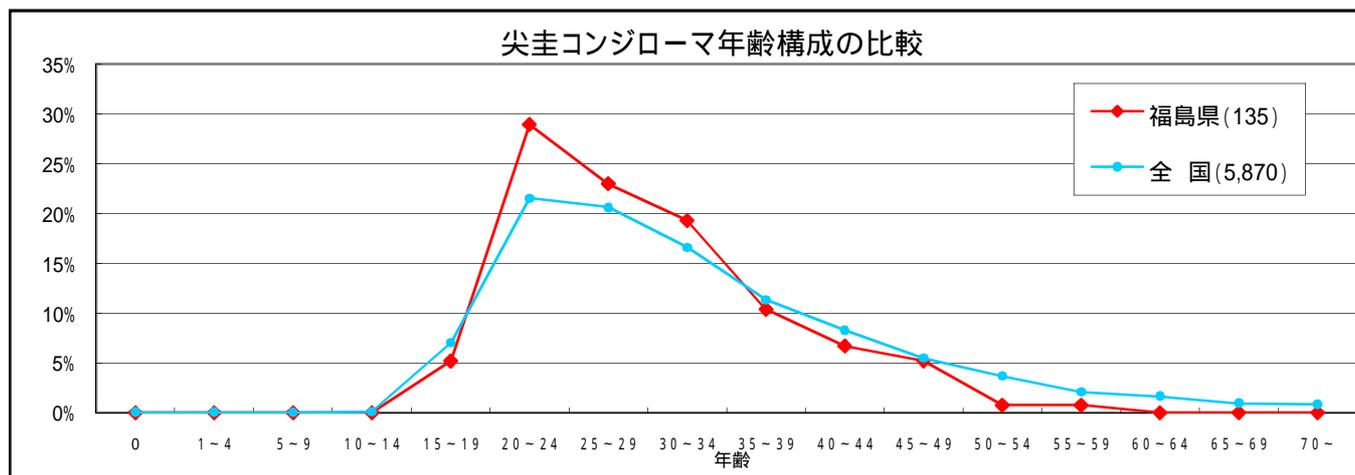


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成20年・男(64)	3	9	2	3	6	4	6	8	9	3	5	6	64
平成20年・女(71)	9	6	5	6	3	6	8	8	5	7	4	4	71
平成20年(135)	12	15	7	9	9	10	14	16	14	10	9	10	135
平成19年(136)	18	5	13	4	13	18	12	12	12	7	14	8	136
平成18年(158)	11	12	11	9	18	11	12	6	11	20	18	19	158

平成18～20年 県内の年齢別構成



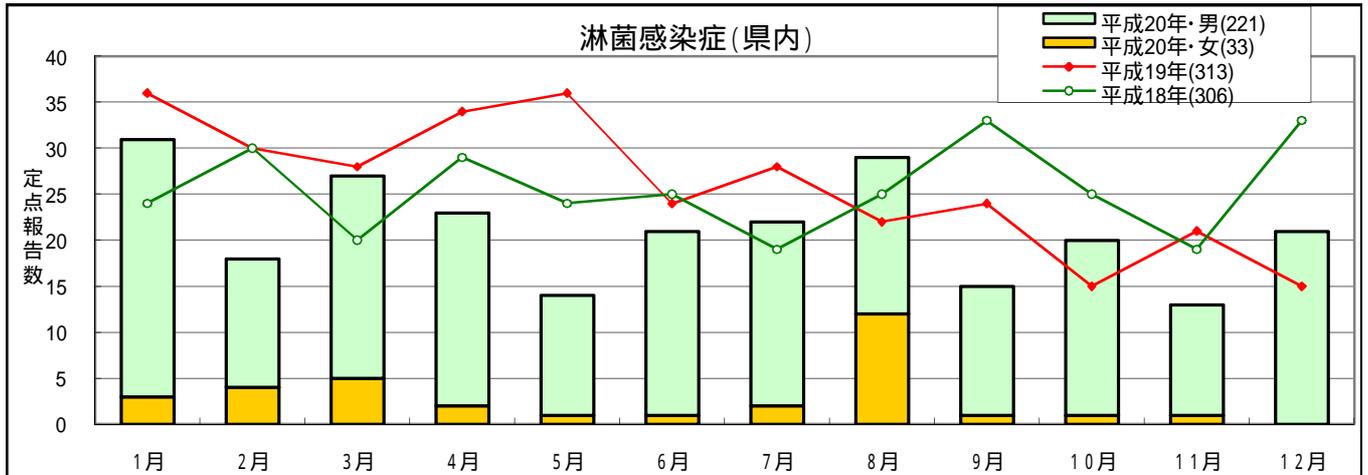
平成20年 年齢構成の比較



(92) 淋菌感染症

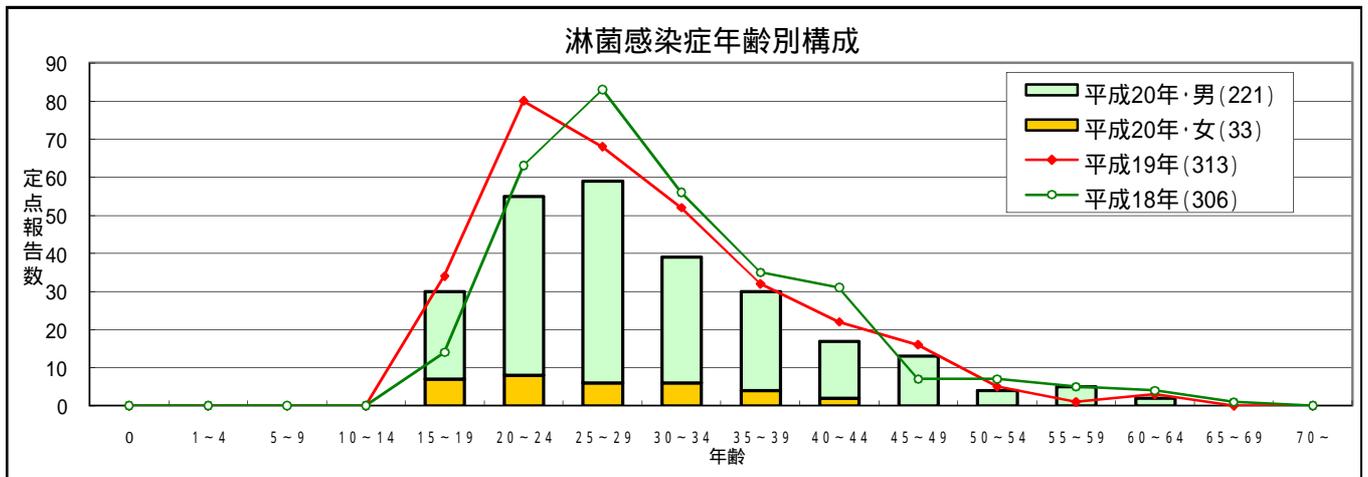
(16STD定点)

定点からの年間報告数は254例(男221例、女33例)あり、20～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、15～19歳、25～29歳の感染者の占める割合が高かった。

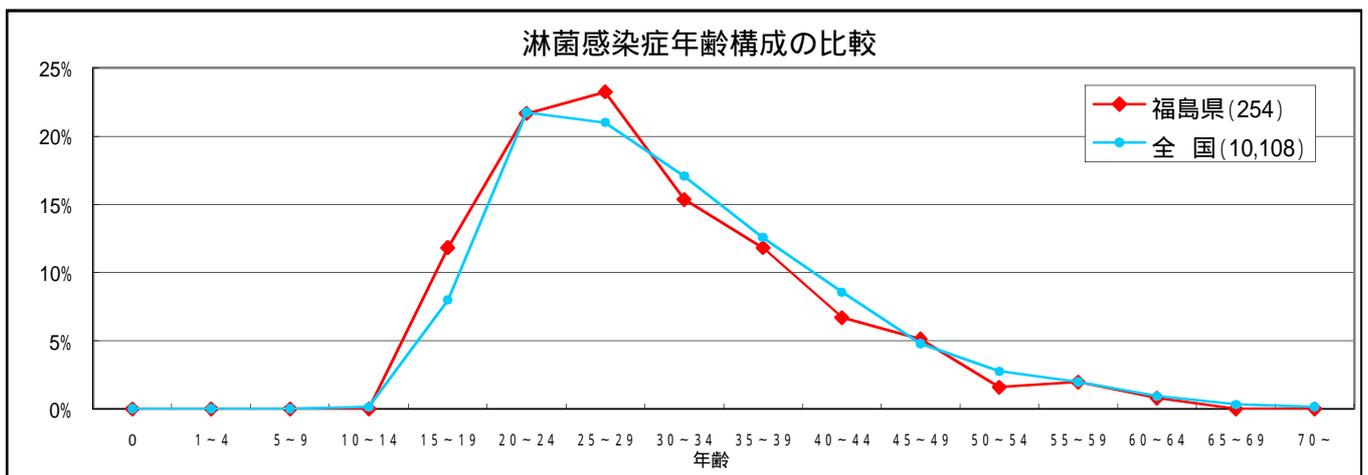


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成20年・男(221)	28	14	22	21	13	20	20	17	14	19	12	21	221
平成20年・女(33)	3	4	5	2	1	1	2	12	1	1	1	0	33
平成20年(254)	31	18	27	23	14	21	22	29	15	20	13	21	254
平成19年(313)	36	30	28	34	36	24	28	22	24	15	21	15	313
平成18年(306)	24	30	20	29	24	25	19	25	33	25	19	33	306

平成18～20年 県内の年齢別構成



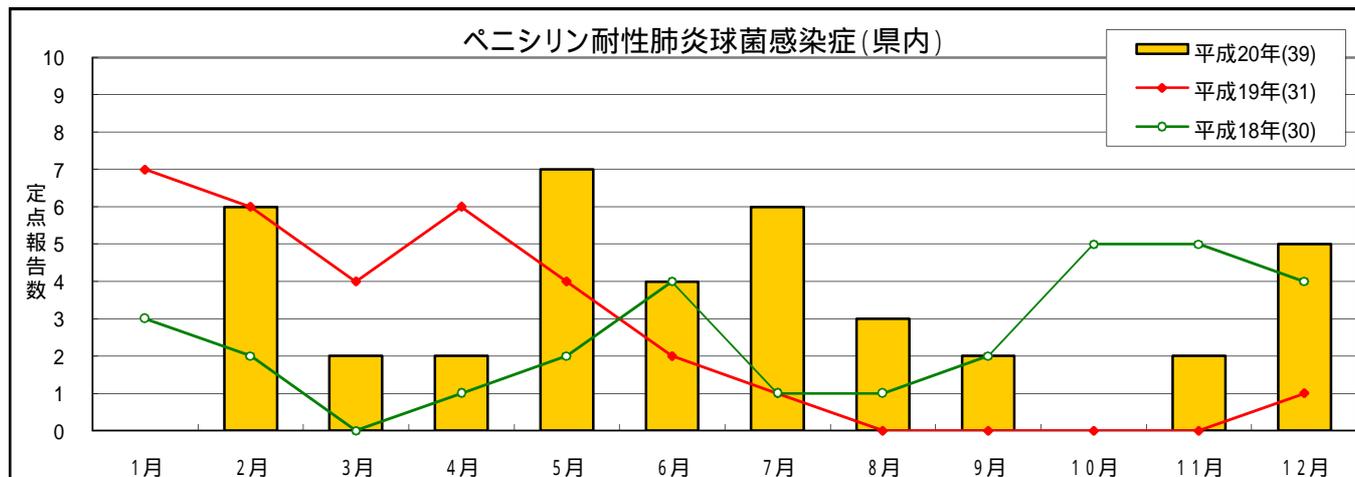
平成20年 年齢構成の比較



(95) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

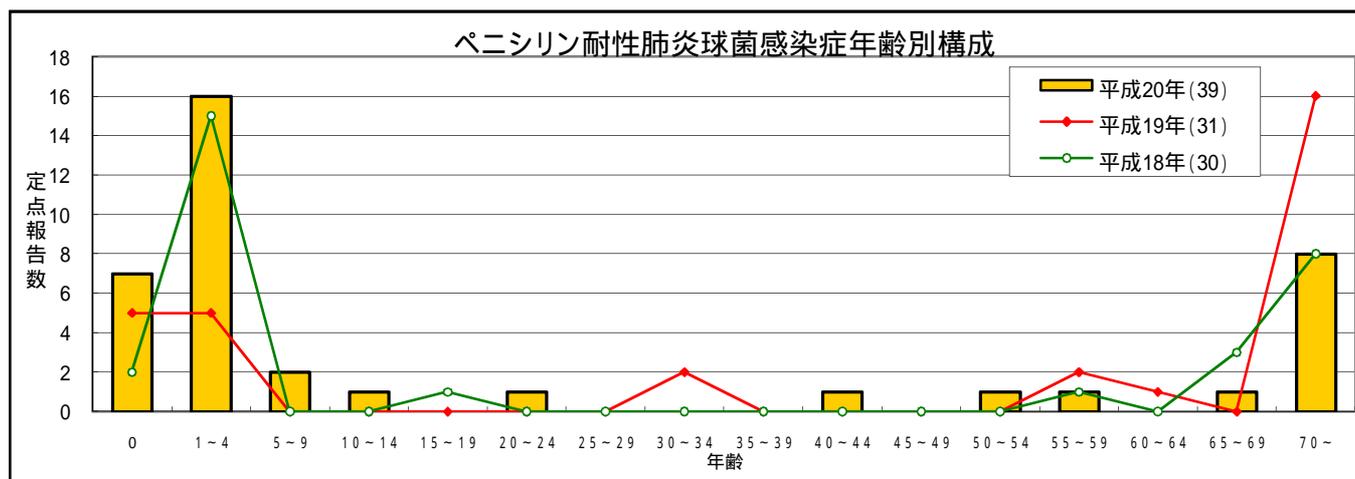
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は39例あり、1～4歳の報告が多かった。

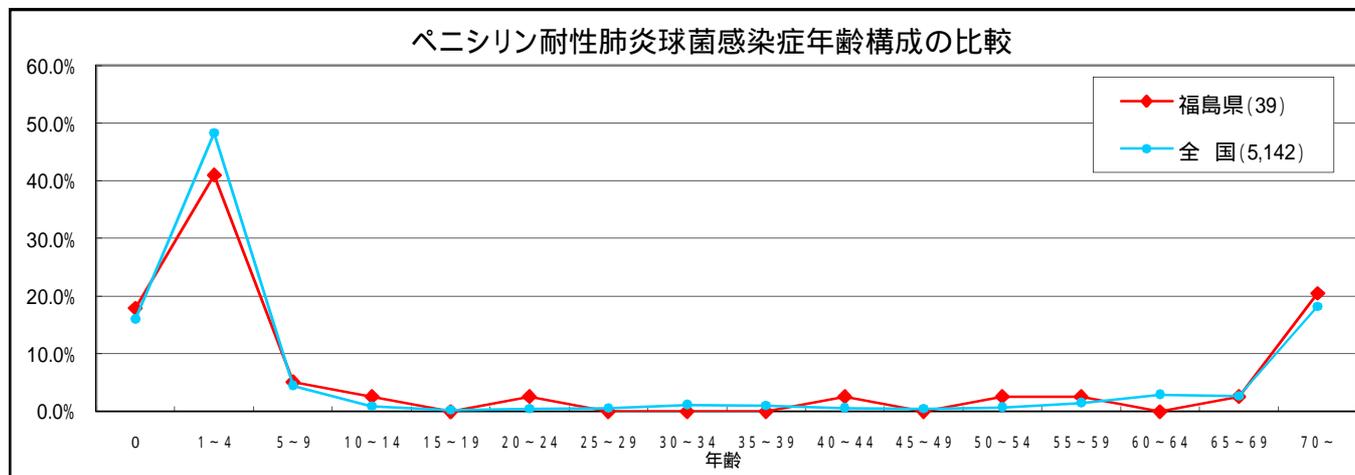


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成20年(39)	0	6	2	2	7	4	6	3	2	0	2	5	39
平成19年(31)	7	6	4	6	4	2	1	0	0	0	0	1	31
平成18年(30)	3	2	0	1	2	4	1	1	2	5	5	4	30

平成18～20年 県内の年齢別構成

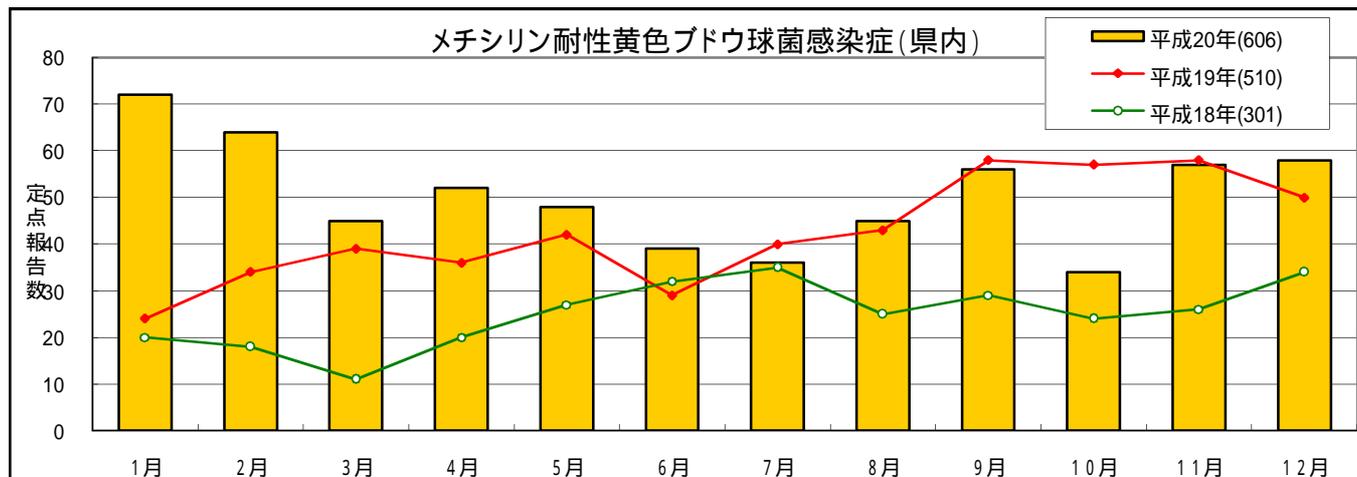


平成20年 年齢構成の比較



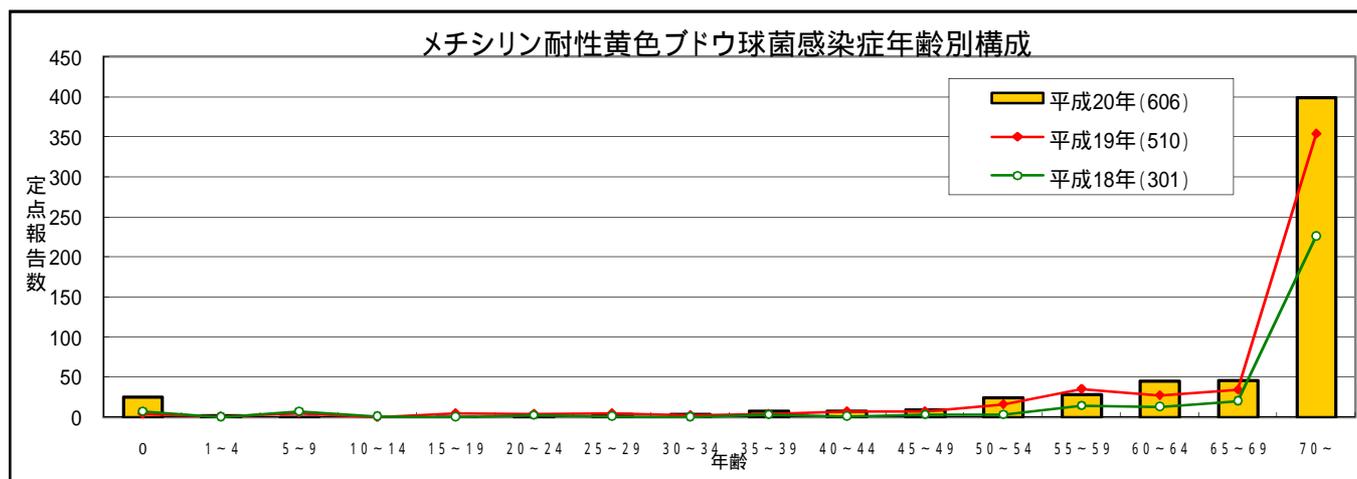
(98)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は606例あり、70歳以上の報告が多かった。

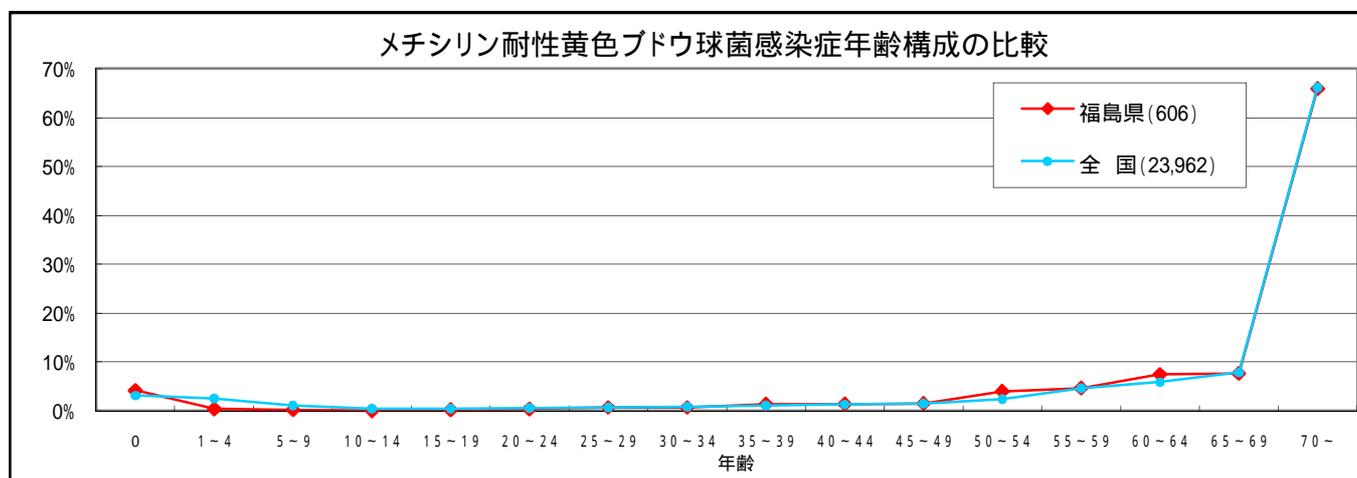


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成20年(606)	72	64	45	52	48	39	36	45	56	34	57	58	606
平成19年(510)	24	34	39	36	42	29	40	43	58	57	58	50	510
平成18年(301)	20	18	11	20	27	32	35	25	29	24	26	34	301

平成18～20年 県内の年齢別構成



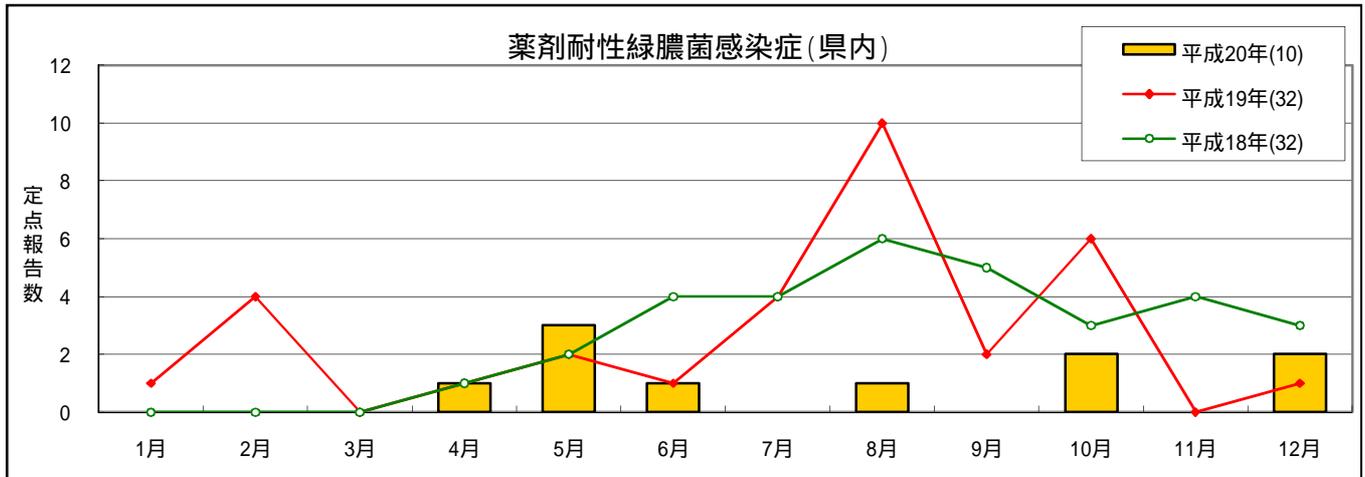
平成20年 年齢構成の比較



(99) 薬剤耐性緑膿菌感染症

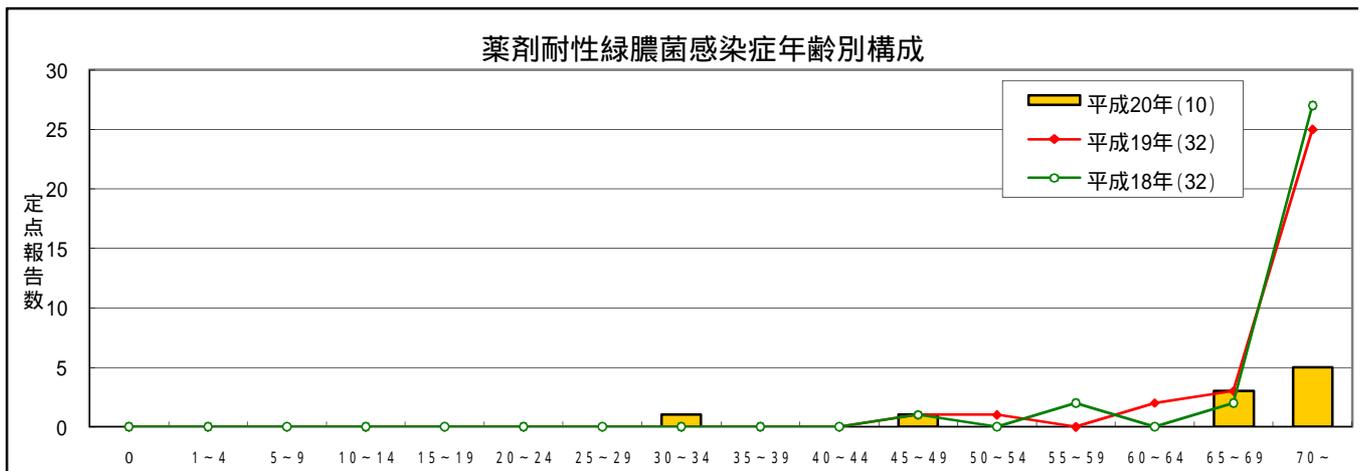
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は10例あり、65歳以上の報告が多かった。

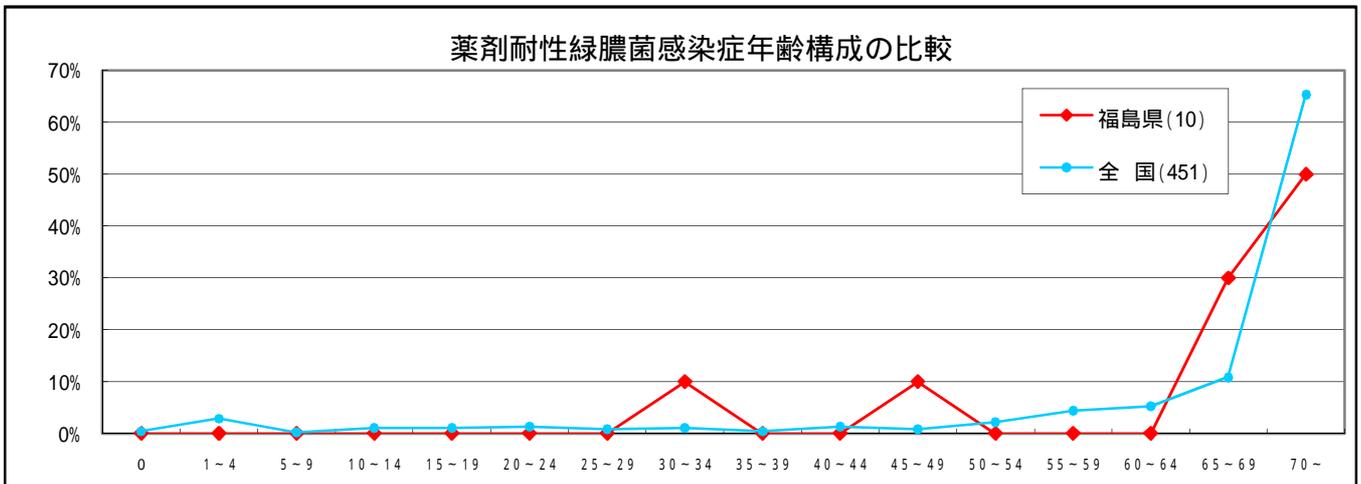


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成20年(10)	0	0	0	1	3	1	0	1	0	2	0	2	10
平成19年(32)	1	4	0	1	2	1	4	10	2	6	0	1	32
平成18年(32)	0	0	0	1	2	4	4	6	5	3	4	3	32

平成18年～20年 県内の年齢別構成



平成20年 年齢別構成の比較



(4) 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症結果報告

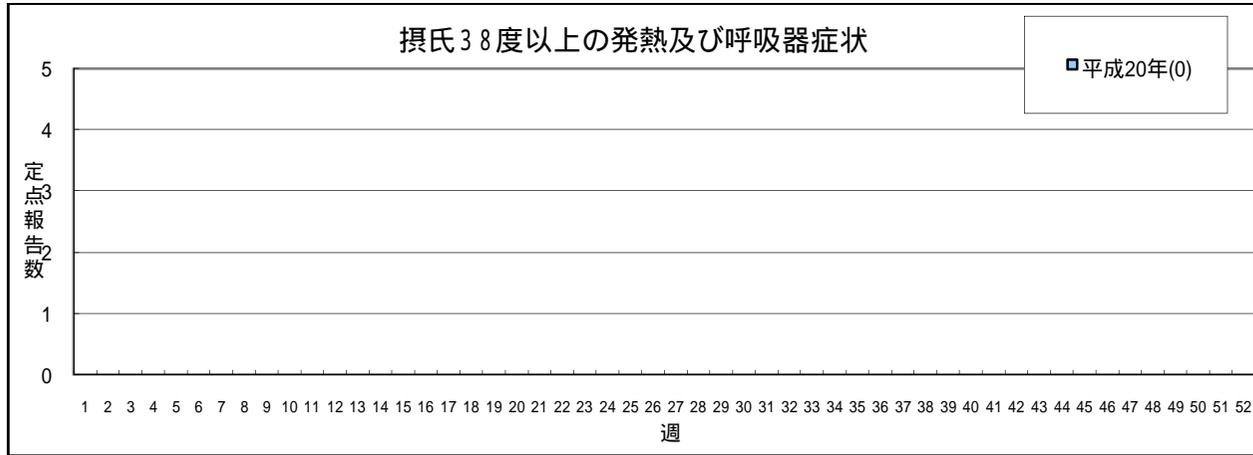
法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症対象疾患 (定点把握)

- (102) 摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状〔明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く〕
- (103) 発熱及び発しん又は水疱〔ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く〕

**法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症対象疾患 (定点把握)
患者地域別定点機関数**

	疑 似 症 定 点
県 北	30
郡山市	20
県 中	13
県 南	9
会 津	16
南会津	4
相 双	11
いわき市	21
計	124

(102) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状



摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状 (124疑似症定点)

定点からの報告はなかった。



明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く

平成20年 報告数

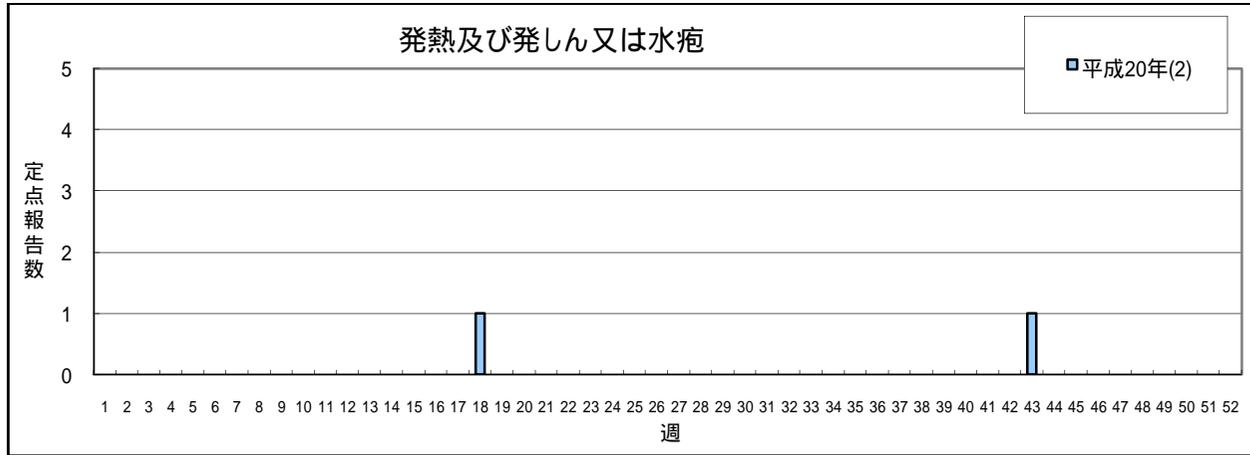
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢構成

	~0歳	~1歳	~3歳	~5歳	~7歳	~9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~	合計
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成20年4月1日より調査開始

(103) 発熱及び発しん又は水疱



発熱及び発しん又は水疱 (124疑似症定点)

定点からの年間報告数は2例あった。



ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く

平成20年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
H19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢構成

	~0歳	~1歳	~3歳	~5歳	~7歳	~9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~	合計
H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2

平成20年4月1日より調査開始

検 査 情 報

- (1) 2008 年感染症発生動向調査事業報告 (ウイルス)
- (2) 2008 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌)
- (3) 2007/2008 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行について

2008 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）

五十嵐郁美 門馬直太 柏原尚子 廣瀬昌子 三川正秀 大竹俊秀 金成篤子¹⁾
微生物課¹⁾：県北保健福祉事務所

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、毎年対象病原体について感染症動向調査を行っている。本報では 2008 年のウイルス検索結果について報告する。

材 料

2008 年 1 月から 12 月までの間に、県内の基幹定点 7 機関、インフルエンザ定点 8 機関、小児科定点 5 機関、眼科定点 1 機関において採取された 1,058 症例由来の咽頭拭い液、糞便、髄液、眼瞼拭い液等、計 1,241 件を検体とした。

方 法

RD-18S, HEP-2, Vero, LLCMK2, MDCK, B95a の 6 種類の細胞を用いてウイルス分離を実施した。検体が糞便の場合には、ラテックス凝集反応によるアデノ・ロタウイルス、さらに RT-PCR 法によるノロウイルス、サポウイルス、アイチウイルス、アストロウイルスの検出も併せて行った。分離ウイルスの同定には、抗血清を用いた中和試験を基本とし、補助的にダイレクトシークエンス法を行った。また、インフルエンザウイルスをはじめとしたオルソミクソウイルスについては赤血球凝集抑制試験と赤血球吸着試験、単純ヘル

ペスウイルスには蛍光抗体法を用い、その他のヘルペスウイルスは PCR 法及び制限酵素等を用いた。

結果及び考察

1 保健所ごとの受付検体症例数

各保健所からの月別の受付検体症例数を表 1 に示した。例年同様、相双と郡山からの検体が多く、県中、会津方面からの検体は少なかった。県南の受付症例数が昨年より 10 分の 1 に減少した。

2 検体の種類別検出状況

ウイルスの検体種類別検出状況を表 2 に示した。1,058 症例 1,241 件のうち、393 症例 406 件の検体から 421 株のウイルスが検出され、分離率は 32.7% であった。

検出された検体の種類ごとの内訳は、咽頭拭い液 246 件、糞便 156 件、髄液 1 件、眼瞼 1 件、その他 2 件であった。種類ごとの検出率は昨年と同じか、少し低めであった。

表 2 検体種類別検出検体数

	咽頭	糞便	髄液	眼瞼	その他	合計
受付検体数	743	411	66	12	9	1,241
検出検体数	246	156	1	1	2	406
検出率 (%)	33.1	38.0	1.5	8.3	22.2	32.7

表 1 月別地区別受付検体症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
県北	15	10	8	7	4	5	4	7	5	1	3	6	75
県中													0
県南	2		1			1				1		1	6
会津				1		1							2
南会津													0
相双	44	56	58	38	25	29	40	20	36	26	44	50	466
郡山市	49	45	35	24	20	40	19	20	33	23	31	38	377
いわき市	20	27	9	8	9	9	12	9	5	2	8	14	132
計	130	138	111	78	58	85	75	56	79	53	86	109	1,058

3 月別検出状況

月別検体症例数，検出率を図1に示した．

ウイルス検出症例数は1月が78症例と最も多く，うちインフルエンザウイルスが44症例と約6割を占めていた．受付症例数は2月が138症例と最も多く冬期におけるインフルエンザ，感染性胃腸炎の流行によるものと推察される（表3）．

4 ウイルス別検出状況

月別ウイルス検出状況を表3に示した．また，複数ウイルスが検出された15症例を表4に示す．

1) アデノウイルス

年間を通じて51症例55株が検出された．アデノウイルス2型が本年も昨年同様最も多く，24症例28株検出された．次いで検出されたのは5型で8症例8株，1型が6症例6

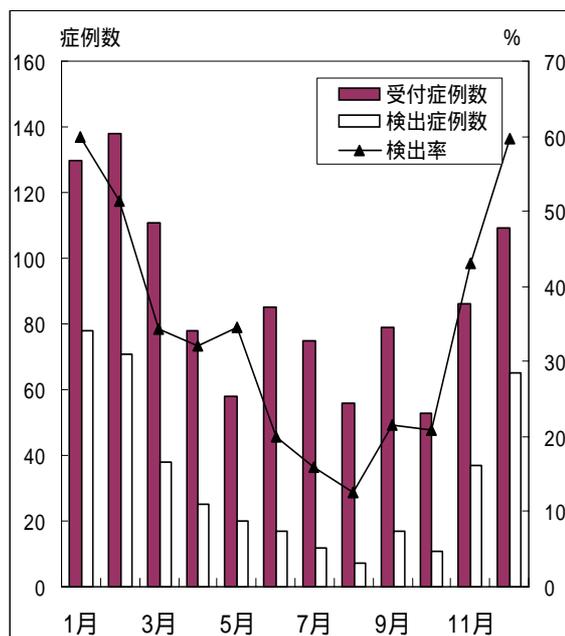


図1 月別検体症例数検出率

表4 複数ウイルスが検出された症例

	分離ウイルス	採取月日	診断名	年齢	性別	住所	FU番号	発熱	咽頭	糞便
1	Influenza A(H1)	H20.1.21	インフルエンザA	10歳	女	福島市	12350	37.6		
	Parainfluenza 1						12551			
2	Influenza A(H1)	H20.2.5	インフルエンザ	12歳	男	いわき市	12484	40.0		
	Adeno 2						12501			
3	Influenza A(H1)	H20.2.5	インフルエンザA	39歳	女	いわき市	12485	39.0		
	Parainfluenza 3						12552			
4	Rotadry(+)	H20.2.9	急性胃腸炎	6ヶ月	男	郡山市	12422	36.5		
	Noro G						12436			
5	Rotadry(+)	H20.2.14	感染性胃腸炎	8ヶ月	女	郡山市	12423	36.4		
	Noro G						12437			
6	Rotadry(+)	H20.2.19	感染性胃腸炎	1歳	男	田村市	12425	37.1		
	Adeno 2						12499			
7	Rotadry(+)	H20.2.25	ロタウイルス感染症 感染性胃腸炎	8ヶ月	女	本宮市	12426	36.8		
	Noro G						12438			
8	Rotadry(+)	H20.2.25	急性胃腸炎	1歳	男	郡山市	12427	37.7		
	Noro G						12439			
9	Rotadry(+)	H20.3.4	感染性胃腸炎	2歳	男	田村市	12508	38.1		
	Adeno sp.						12540			
10	Noro G	H20.6.10	感染性胃腸炎	1歳	女	郡山市	12598	38.2		
	Polio 1						12604			
11	Parecho 3	H20.10.4	ウイルス性発疹	1歳	女	いわき市	12647	36.1		
	HHV-6						12660			
12	Noro G	H20.10.17	急性気管支炎 急性胃腸炎	1歳	男	郡山市	12657	37.2		
	Adeno2						12692			
13	Noro G	H20.11.18	感染性胃腸炎 腺窩性扁桃炎	1歳	男	郡山市	12676	38.9		
	Adeno2						12709			
14	Noro G	H20.11.18	急性胃腸炎	2歳	男	郡山市	12677	38.1		
	Adeno2						12705			
15	InfluenzaA(H1)	H20.12.26	インフルエンザA	4歳	女	二本松市	12734	37.3		
	Echo 30						12760			

複数ウイルス分離

表3 受付月別ウイルス検出症例数

症例数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Adeno 1			1 (1)			1 (1)	1 (1)				2 (2)	1 (1)	6 (6)
Adeno 2	4 (6)	5 (6)	1 (1)	2 (3)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	1 (1)		1 (1)	3 (3)		24 (28)
Adeno 3		1 (1)	2 (2)			1 (1)	1 (1)						5 (5)
Adeno 5	1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	1 (1)							1 (1)	8 (8)
Adeno 6					1 (1)								1 (1)
Adeno sp.	1 (1)		1 (1)					1 (1)					3 (3)
Adenodry(+)	1 (1)		1 (1)		1 (1)				1 (1)				4 (4)
Cox A 16								3 (3)	5 (6)	1 (1)	1 (1)		10 (11)
CoxB 3											2 (3)	2 (2)	4 (5)
CoxB 4		2 (2)											2 (2)
Echo 5									1 (1)				1 (1)
Echo 13												2 (2)	2 (2)
Echo 18		2 (2)			3 (3)		2 (2)		1 (1)				8 (8)
Echo 30		1 (1)							3 (3)	3 (3)	3 (6)	1 (1)	11 (14)
Parecho1						1 (1)					1 (1)		2 (2)
Parecho3								1 (1)	4 (4)	1 (1)	1 (1)		7 (7)
Parecho4									1 (1)				1 (1)
Polio				1 (1)	1 (1)	1 (1)			1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	8 (8)
Influenza A(H1)	44 (44)	40 (40)	10 (10)	1 (1)							3 (3)	23 (23)	121 (121)
Influenza A(H3)			3 (3)	2 (2)								7 (7)	12 (12)
Influenza B		4 (4)	10 (10)	12 (12)	5 (5)							1 (1)	32 (32)
Parainfluenza	1 (1)	1 (1)				1 (1)							3 (3)
HSV 1				1 (1)		1 (1)		1 (1)					3 (3)
EBV					2 (2)							1 (1)	3 (3)
CMV											1 (1)		1 (1)
HHV 6										1 (1)			1 (1)
Rotadry(+)	1 (1)	9 (9)	5 (5)	4 (4)	2 (2)								21 (21)
Noro G	1 (1)	5 (5)			1 (1)	2 (2)						2 (2)	11 (11)
Noro G	24 (24)	7 (7)	3 (3)			5 (5)	1 (1)			3 (3)	18 (18)	22 (22)	83 (83)
Sapo	1 (1)					2 (2)	3 (3)				3 (3)		9 (9)
Astro					1 (1)	2 (2)				1 (1)		1 (1)	5 (5)
症例数 (株数)	78 (81)	71 (79)	38 (39)	25 (26)	20 (20)	17 (18)	12 (12)	7 (7)	17 (18)	11 (13)	37 (43)	65 (66)	397 (421)
未同定症例数			1										1
受付検体症例数	130	138	111	78	58	85	75	56	79	53	86	109	1,058
検出率	60.0	51.4	34.2	32.1	34.5	20.0	16.0	10.7	21.5	20.8	43.0	59.6	37.5

同一症例複数ウイルス分離を含む

()分離株数

2009年3月11日現在

株，3型で5症例5株，6型は1症例1株であった。また，型別が不能であった3症例3株は遺伝子検索によりアデノウイルスと同定した。

2) エンテロウイルス

全体で56症例60株検出され，最も多く検出されたのはエコーウイルス30型で11症例14株検出された。採取時期は，9～10月は郡山地区の検体で，11月は相双地区，12月は県北地区であった。診断名は，上気道炎，ヘルパンギーナ，胃腸炎と様々な症例からの検出であった。また，11月に相双地区の髄膜炎7歳男児(咽頭拭い液，糞便，髄液)からも検出された。

エコーウイルス18型は8症例8株検出された。年間を通じいわき地区の発疹症患者からであった。

パレコウイルスは1型が2症例2株，3型が7症例7株，4型が1症例1株検出された。採取時期は9月を中心に6月～11月まで検出された。なお，4型の検出報告は本県ではじめてである。

コクサッキーウイルスA16型は10症例11株検出された。うち9症例が手足口病からの検出であった。また昨年本県で検出されたエンテロウイルス71型は検出されなかった。

コクサッキーB群ウイルスは3型が4症例5株，4型が2症例2株検出された。胃腸炎及び上気道炎から検出され，採取時期は3型が11～12月，4型が2月の検出であった。

ポリオウイルスは春と秋の集団予防接種時期に8症例8株検出された。6症例6株はワクチン投与後の検出であり，ワクチン由来と思われる。2症例2株は患者にワクチン投与はなく，ワクチン投与者との接触によると考えられる。またこの2症例では，ポリオ様症状はみられなかった。

3) インフルエンザウイルス

インフルエンザウイルスの昨年未からの検出数を図2に示す。2007/2008シーズンの初期の11月に検出されたのはA(H1)型であった。インフルエンザウイルス全体の検出のピークは，1月と2月で，それぞれ44症例から検出された。5月にB型が5症例から検出されたのを最後に，シーズンが終了したと思

われる。全国的にA(H1)型が主に流行したのと同様，本県でもA(H1)型が117症例検出され，76%を占めた。

2008/2009シーズンは，11月に相双地区のインフルエンザと扁桃炎の患児からA(H1)型が検出され，12月にはA(H1)型が23症例，A(H3)型が10症例，またB型が1症例から検出された。

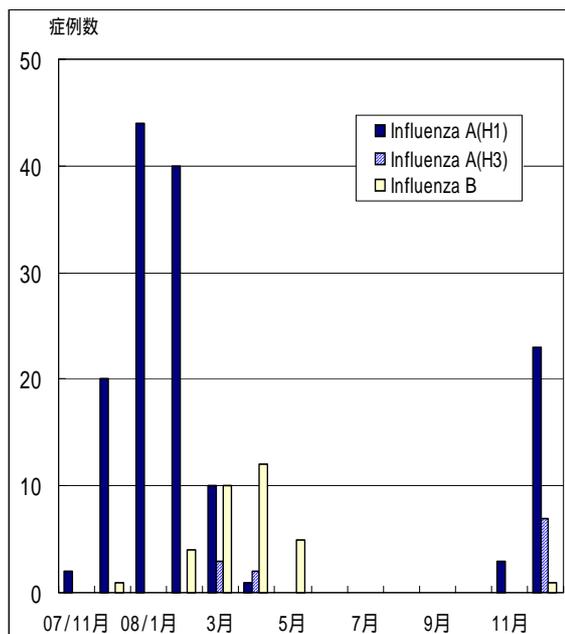


図2 月別インフルエンザ検出症例数

4) ヘルペスウイルス

単純ヘルペスウイルス1型が3症例3株から検出された。それらの症例は扁桃炎，口内炎，発疹症であった。

エプスタインバーウイルス(EBウイルス)は3症例3株検出され，いわき地区で肝炎症状を有する8ヶ月の女児，同じくいわき地区のウイルス性肝炎の8ヶ月の女児，さらに1症例は郡山地区の伝染性単核症疑い1歳男児からであった。

サイトメガロウイルスはいわき地区の発疹症1歳女児から1症例1株，検出された。

ヒトヘルペスウイルス6型は，いわき地区の発疹症1歳女児から検出された。この症例からはパレコウイルス3型も検出された。

5) ノロウイルス(図3)

2007/2008シーズンは12月をピークに7

月まで 92 症例検出がされた。うち 83 症例 (90%) と大部分がノロウイルス G であった。また、2008/2009 シーズンも 10 月から検出され、前シーズンより早い採取時期であった。

6) ロタウイルス(図 3)

1 月～ 5 月にかけて 21 症例 21 株検出された。症例は全て乳幼児であった。また、他のウイルスと同時に検出された症例では、ノロウイルスが 4 症例、アデノウイルスが 2 症例であった。

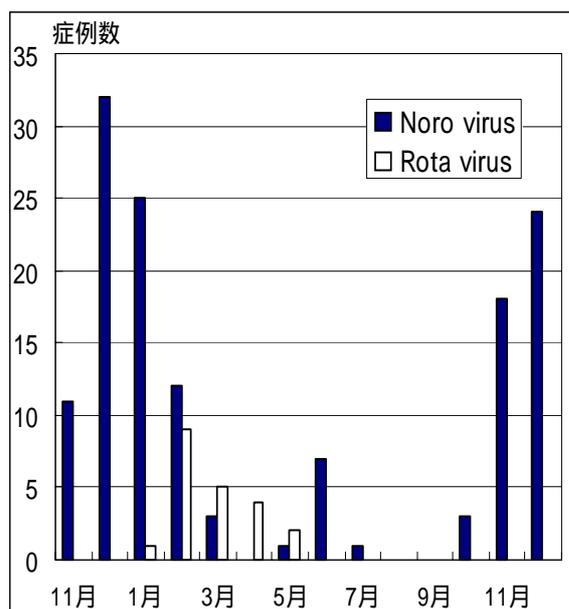


図 3 月別ノロ・ロタウイルス検出症例数

7) その他のウイルス

パラインフルエンザウイルスは 3 症例 3 株検出した。1 症例 1 株は上気道炎の 2 歳女児から検出された。2 症例 2 株はインフルエンザ症例で、インフルエンザウイルス A(H1) 型と同時に検出された。このことは 2004 年に扁桃炎を伴う発疹症の男児からの検出報告以来である。

調査研究の一環として、胃腸炎原因ウイルスであるサポウイルス 9 症例 9 株、アストロウイルス 5 症例 5 株検出した。サポウイルスは年間を通して検出され、8 症例は G で、1 症例は G であった。アストロウイルスは 5 ～ 6 月、10 月、12 月の症例からの検出であった。今後も引き続き監視を続けていきたい。

5 診断名別検出状況

診断名別検出状況を表 5 に示した。

本年搬入された症例では、胃腸炎と診断された症例が最も多く、278 症例で、141 症例からウイルスが検出された。検出ウイルスはノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス、エコーウイルスなど様々であるが、ノロウイルスが 94 症例と全体の 67% 占め、次いでロタウイルス 15% であった。

上気道炎は 253 症例で 50 症例から検出された。そのうち 27 症例はアデノウイルスが検出され、型別では 2 型が 13 例と最も多かった。

インフルエンザは 193 症例で、152 症例から検出され、検出率が最も高かった。インフルエンザウイルスは 148 症例と大部分から検出され、その他 4 症例はアデノウイルス 2 型と 3 型、エコーウイルス 30 型、パレコウイルス 3 型が検出された。

下気道炎は 86 症例で 8 症例から検出された。内訳はアデノウイルス、コクサッキーウイルス、インフルエンザウイルスなどである。

手足口病は 21 症例と昨年 4 分の 1 程度の搬入であった。コクサッキーウイルス A16 型が 9 症例から検出された。

ヘルパンギーナは 28 症例中 4 症例から検出された。検出されたのはアデノウイルス 2 型、エコーウイルス 30 型、インフルエンザウイルス A(H3) であった。

まとめ

- 2007/2008 シーズンはインフルエンザウイルスは A(H1) が主として検出された。
- エコーウイルス 30 型が 9 月から 12 月にかけて流行した。また髄膜炎症例から検出された。
- ヘルペスウイルスは EB ウイルス、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6 を本県で初めて検出した。
- パレコウイルスは 4 型を本県で初めて検出した。
- サポウイルスは年間を通じ、また、アストロウイルスが散発ではあるが福島県内各地から検出された。

表5 診断名別ウイルス検出症例数

症例数	上気 道炎	下気 道炎	インフル エンザ	胃腸 炎	髄膜 炎	手足 口病	口内 炎	発疹 症	ヘルパン ギーナ	熱性 痙攣	結膜 炎等	その 他	計
Adeno 1	4	1								1			6
Adeno 2	13	2	2	4				1	1	1			24
Adeno 3	4			1									5
Adeno 5	6							1		1			8
Adeno 6						1							1
Adeno sp. Adenodry(+)				1								2	3
				4									4
Cox A 16						9	1						10
CoxB 3	2	1					1						4
CoxB 4	2												2
Echo 5								1					1
Echo 13				1	1								2
Echo 18								8					8
Echo 30	1		2	5		1			2				11
Parecho1				2									2
Parecho3	1	1	1	1		1	1					1	7
Parecho4				1									1
Polio	2			5						1			8
Influenza A(H1)	8	3	109							1			121
Influenza A(H3)			11						1				12
Influenza B	4		28										32
Parainfluenza	1	2											3
HSV 1	1						1	1					3
EBV								1				2	3
CMV								1					1
HHV 6							1						1
Rotadry(+)	1			20									21
Noro G				11									11
Noro G				82						1			83
Sapo				9									9
Astro				5									5
陽性症例数	50	8	152	141	2	11	3	15	4	6	2	3	397
受付検体症例数	253	86	193	278	7	21	10	48	28	64	13	57	1,058
検出率(%)	19.8	9.3	78.8	50.7	28.6	52.4	30.0	31.3	14.3	9.4	15.4	5.3	37.5

同一症例複数ウイルス分離を含む

2009年3月11日現在

謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点医療機関の諸先生方に深謝いたします。

2008 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）

小黒祐子 菅野奈美 渡邊奈々子 須釜久美子 大竹俊秀
微生物課

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では 2008 年の細菌検索結果について報告する。

材 料

2008 年 1 月から 12 月まで、県内 11 定点のうち、協力の得られた 7 定点医療機関より採取された 592 件を対象とした。検体の内訳を表 1 に示す。咽頭・扁桃拭い液 216 件、後鼻腔拭い液 272 件、糞便・直腸拭い液 81 件、髄液 9 件であり、菌株による搬入は 317 件である。

方 法

1 細菌分離

A 群溶血性レンサ球菌（以下、“A 群溶レン菌”とする）、細菌性髄膜炎起因菌、百日咳菌、感染性胃腸炎起因菌等を対象とし、厚生省監修「微生物検査必携・第 3 版」に従い検索した。

2 薬剤耐性遺伝子検出、薬剤感受性試験

肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子の検出および薬剤感受性試験は既報¹⁾の方法により実施、判定した。なお、薬剤感受性試験は公立相馬総合病院検査科で実施した。

結 果

1 患者居住地別症例数

表 2 に示したように全検体 592 件のうち、郡山市と相馬市で 413 件、69.8 % を占め、地域に偏りが認められる。

表 2 居住地域別症

地 域 名	症例数	地 域 名	症例数
福島市	6	喜多方市	1
本宮市	22	河沼郡	3
安達郡	2	耶麻郡	1
郡山市	212	南会津郡	4
須賀川市	4	相馬市	201
田村市	10	南相馬市	16
田村郡	14	相馬郡	51
石川郡	8	双葉郡	6
西白河郡	1	いわき市	1
東白川郡	1	県 外	20
会津若松市	8		
計			592

表 1 月別・検査材料別検体数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・扁桃拭い液	31	51	25	29	15	9	5	3	8	13	8	19	216
スワブ(再掲)	(31)	(51)	(24)	(29)	(14)	(8)	(4)	(3)	(4)	(13)	(8)	(19)	(208)
平板(再掲)													
菌株(再掲)			(1)		(1)	(1)	(1)		(4)				(8)
後鼻腔拭い液	20	11	37	22	20	26	15	18	24	32	22	25	272
スワブ(再掲)							(1)						(1)
菌株(再掲)	(20)	(11)	(37)	(22)	(20)	(26)	(14)	(18)	(24)	(32)	(22)	(25)	(271)
糞便・直腸拭い液	2	3	7	7	4	6	4	12	8	9	10	9	81
キャリア(再掲)	(1)	(1)	(2)	(7)	(3)	(5)	(4)	(8)	(8)	(8)	(9)	(9)	(65)
菌株(再掲)	(1)	(2)	(5)		(1)	(1)		(4)		(1)	(1)		(16)
髄液	2	1	1				1				2	2	9
髄液(再掲)													
菌株(再掲)	(2)	(1)	(1)				(1)				(2)	(2)	(9)
その他				2	1	1		1	1	4	3	1	14
キャリア等(再掲)										(1)			(1)
菌株(再掲)				(2)	(1)	(1)		(1)	(1)	(3)	(3)	(1)	(13)
				血液1	皮膚1	血液1		浸出液1	創部1	血液3	血液2	血液1	
				結膜1						皮膚1	尿1		
計	55	66	70	60	40	42	25	34	41	58	45	56	592

表3 月別・検査材料別分離率

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・後鼻腔拭い液 スwab	31	51	24	29	15	8	5	3	4	13	8	19	210
分離数	31	49	22	28	13	5	1	0	4	5	5	17	180
分離率(%)	(100.0)	(96.1)	(91.7)	(96.6)	(86.7)	(62.5)	(20.0)	(0.0)	(100.0)	(38.5)	(62.5)	(89.5)	(85.7)
糞便・直腸拭い液 キャリブレ	1	1	2	7	3	5	4	8	8	8	9	9	64
分離数	0	0	0	2	1	2	1	2	3	2	4	0	17
分離率(%)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(28.6)	(33.3)	(40.0)	(25.0)	(25.0)	(37.5)	(25.0)	(44.4)	(0.0)	(26.6)

2 検査材料別分離率

輸送培地で搬入した検体について、細菌分離率を表3に示す。咽頭拭い液は210件中180件、85.7%、糞便・直腸拭い液は64件中17件、26.6%であった。

3 細菌分離状況

表4に月別の細菌分離状況を示す。

1) 溶血性レンサ球菌

A群溶レン菌は207株分離され、上気道拭い液(咽頭・扁桃168株、後鼻腔37株)由来205株、皮膚病巣由来2株であった。患者の年齢は3~8歳が78.0%を占め、ピークは5歳であった。月別では1月~4月の間に139株、67.1%を検出した。A群溶レン菌の血清型は10種類に型別された。最も多く分離されたのはT-12型138株(66.7%)、次いでT-25型24株(11.6%)、T-4型11株(5.3%)、T-1型9株(4.3%)、T-B3264型8株、T-6型4株、T-28型2株、T-2型、T-11型、T-13型各1株、型不明8株(3.9%)であった。他の溶血性レンサ球菌(以下、“溶レン菌”とする)は8株分離され、すべて咽頭拭い液由来のG群溶レン菌であった。11歳の腺窩性扁桃炎患者の咽頭拭い液からは、A群溶レン菌T-12型と共に *Serratia liquefaciens* が分離された。

2) 糞便・直腸拭い液からの腸管系病原菌

腸管系病原菌は34株分離され(表4)、内訳は下痢原性大腸菌25株、*Salmonella* 7株、*Campylobacter jejuni* 2株であった。大腸菌の血清型は6種類で、O1が最も多く16株(64.0%)、次いでO74が4株(16.0%)、O86aが2株、O15、O18、O126が各1株であった。いずれの大腸菌にも毒素遺伝子は認められなかった。*Salmonella* の血清型は6種類でEnteritidis2株、Bareilly, Stanley, Singapore, Lithchfield, 亜種4:i:-各1株であった。

3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌

肺炎球菌は121株分離された。細菌性髄膜炎患者の髄液由来は2株、敗血症患者の血液由来1株でその他は呼吸器感染症患者の上気道(後鼻腔114株、咽頭4株)由来であった。患者の年齢は0~3歳が81.5%を占め、ピークは1歳であった。

インフルエンザ菌は124株分離された。細菌性髄膜炎患者の髄液由来が4株で、他は呼吸器感染症患者の上気道(後鼻腔116株、咽頭4株)由来であった。患者の年齢は、0~3歳が75.7%を占め、ピークは1歳であった。インフルエンザ菌の血清型は、型不明が最も多く108株(87.1%)、次いでb型7株(5.6%)、d型5株(4.0%)、e型3株(2.4%)、f型1株(0.8%)であった。b型型別された7株の中で4株はPCR法によって型別された。髄液由来株はすべてb型であった。

4) 上気道拭い液からの百日咳菌

百日咳疑い患者の上気道拭い液6件から、菌の分離には至らなかったが、PCR法、LAMP法にて2件検出した。

5) 髄液からの検出菌

前述のインフルエンザ菌、肺炎球菌以外に *Cryptococcus neoformans* 2株、*Staphylococcus epidermidis* 1株が分離された。

6) その他の検出菌

血液から5株分離された。内訳は後天性免疫不全症の患者から *Cryptococcus neoformans* 2株、敗血症の患者から *Helicobacter cinaedi* 2株、尿路感染症患者から *E. coli* 1株であった。結膜拭い液から *Neisseria gonorrhoeae* 1株分離された。腸管穿孔部の創部から *Enterococcus faecalis* が分離され *VanA* 遺伝子を有していた。尿路感染症患者の尿から *Corynebacterium striatum* 分離された。手術部位創部浸出液から *Mycobacterium fortuitum*

表4 月別細菌分離状況(2008年1月~12月)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群溶レン菌	T-1	4	1	1	2								1	9
A群溶レン菌	T-2					1								1
A群溶レン菌	T-4		3	2		2	1					1	2	11
A群溶レン菌	T-6		1								1	1	1	4
A群溶レン菌	T-11					1								1
A群溶レン菌	T-12	27	40	18	18	6	4	1	2	3	6	4	9	138
A群溶レン菌	T-13		1											1
A群溶レン菌	T-25	1	2	6	2		4	1			1	1	6	24
A群溶レン菌	T-28				1								1	2
A群溶レン菌	T-B3264			3	2	3								8
A群溶レン菌	T型不明	1	3			1	1					1	1	8
G群溶レン菌		1			1	2				2	1		1	8
百日咳菌					2									2
<hr/>														
<i>E.coli</i>					1									1
<i>E.coli</i>	O1		2	4	1	1	1		1	2	1	3		16
<i>E.coli</i>	O15									1				1
<i>E.coli</i>	O18				1									1
<i>E.coli</i>	O74						1	1	1			1		4
<i>E.coli</i>	O86a								2					2
<i>E.coli</i>	O126					1								1
<i>E.faecalis</i>	vanA +									1				1
<i>S. Enteritidis</i>									1		1			2
<i>S. Bareilly</i>		1												1
<i>S. Stanley</i>				1										1
<i>S. Singapore</i>									1					1
<i>S. Lithchfield</i>											1			1
<i>Salmonella</i> sp	亜種 4:i:-				1									1
<hr/>														
<i>C.jejuni</i>							1					1		2
<i>H.cinaedi</i>							1					1		2
<i>C.neoformans</i>		1						1			2			4
<i>S.aureus</i>	mecA-					1	2							3
<i>S.aureus</i>	mecA+					1								1
<i>S. epidermidis</i>		1												1
<i>S. liquefaciens</i>		1												1
<i>M. fortuitum</i>									1					1
<i>C.striatum</i>												1		1
<i>N. gonorrhoeae</i>					1									1
<hr/>														
<i>Streptococcus</i> 属				1										1
<i>S.pneumoniae</i>	PSSP	1	2			2		1	1	5	3	2		17
	PISP	6	1	7	1	4	3	2	1	4	3	4	6	42
	PRSP	2	4	5	8	6	2	8	4	8	7	4	4	62
<i>H.influenzae</i>	BLNAS		1	5	3	1			2	3	4	1	1	21
	軽度BLNAR				1	1	1		1		2	1	1	8
	BLNAR	6	2	13	10	2	12	3	7	7	10	9	9	90
	BLPAR					1	2						2	3
計		53	63	66	56	37	36	18	25	36	43	36	45	514

が分離された。 *Corynebacterium striatum* と *Mycobacterium fortuitum* の 2 株について同定が困難であったためシーケンス (16S rRNA 遺伝子配列解析) によって菌種を決定した。

4 肺炎球菌，インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

1) 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

薬剤耐性遺伝子の検出結果と Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) による薬剤感受性判定結果を表 5 に示す。

遺伝子検査の結果，ペニシリン結合蛋白をコードする 3 種類の遺伝子 *pbp* の何れかに変異が認められた株は 121 株中 104 株 (85.9 %) であった。その内訳は *pbp1a* 変異 1 株， *pbp2x* 変異 18 株， *pbp1a+2x* 変異 8 株， *pbp2x+2b* 変異 17 株， *pbp1a+2x+2b* 変異 60 株である。これらを遺伝子変異の有無によって分類すると，ペニシリン感受性肺炎球菌 (以下 “ PSSP ” とする) 17 株 (14.0 %) ，ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 (以下 “ PISP ” とする) 44 株 (36.4 %) ，ペニシリン耐性肺炎球菌 (以下 “ PRSP ” とする) 60 株 (49.6 %) である。なお，髄膜炎患者の髄液由来株は遺伝子に変異のない PSSP， *pbp2x+2b* に変異のある PISP であった。

一方，CLSI による薬剤感受性試験では，PSSP47 株 (38.8 %) ，PISP25 株 (20.7 %) ，PRSP47 株 (38.8 %) に分類された。この PSSP47 株の内 31 株 (65.9 %) に *pbp* 変異が

検出され，PISP25 株の内 14 株 (56.0 %) に *pbp1a+2x+2b* 変異が検出された。マクロライド耐性遺伝子は 112 株 (92.6 %) に認められた。その内訳は耐性遺伝子 *mefA* 検出が 52 株， *ermB* 検出が 70 株であり，このうち 10 株は *mefA* ， *ermB* 共に検出した。

2) インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果と CLSI による薬剤感受性判定を表 6 に示す。

遺伝子検査の結果，ペニシリン結合蛋白をコードする遺伝子 *ftsI* の変異部位 *pbp3-1* ， *pbp3-2* の何れかに変異を認めた株は 124 株中 102 株 (82.3 %) であった。TEM 遺伝子別にみると，TEM 遺伝子陰性 (β -ラクタマーゼ陰性) は 119 株，TEM 遺伝子陽性 (β -ラクタマーゼ陽性) は 5 株 (4.0 %) であった。これらを遺伝子変異によって分類すると， β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 (以下 “ BLNAS ” とする) 22 株 (17.7 %) ， β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 (以下 “ 軽度 BLNAR ” とする) 9 株 (7.3 %) ， β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 (以下 “ BLNAR ” とする) 93 株 (75.0 %) であった。 β -ラクタマーゼ陽性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 (以下 “ BLPAR ” とする) 5 株のうち 3 株が， β -ラクタマーゼ陽性アモキシシリン / クラバン酸耐性- インフルエンザ菌 (以下 “ BLPACR- ” とする) であった。なお，髄膜炎患者の髄液由来 4 株は全て *pbp3-1* ， *pbp3-2* の何れかに変異を認めた

表 5 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

CLSIによる 薬剤耐性	<i>pbp</i> 変異							計	
	変異なし	<i>pbp1a</i>	<i>pbp2x</i>	<i>pbp2b</i>	<i>pbp1a+2x</i>	<i>pbp1a+2b</i>	<i>pbp2x+2b</i>		<i>pbp1a+2x+2b</i>
PSSP	16	1	17		8		4	1	47
PISP			1				10	14	25
PRSP							2	45	47
未実施	1						1		2
計	17	1	18		8		17	60	121

表 6 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子結果

CLSIによる 薬剤耐性	TEM	<i>pbp</i> 変異			計	
		変異なし	<i>pbp3-1</i>	<i>pbp3-2</i>		<i>pbp3-1+3-2</i>
BLNAS		19	6	4	6	35
軽度BLNAR			2	6	24	32
BLNAR				6	41	47
BLPAR	5	2			3	5
未実施		1	1		3	5
計		22	9	16	77	124

BLNAR3 株, L-BLNAR1 株であった。一方, CLSI による薬剤感受性試験では, BLNAS 35 株 (28.2%), 軽度 BLNAR 32 株 (25.8%) に分類された。この BLNAS 35 株の内 16 株 (45.7%) に *pbp3-1*, あるいは *pbp3-2* 遺伝子変異を検出した。

考 察

A 群溶レン菌は, 小児の咽頭炎の主要な原因菌である。付表に本調査による A 群溶レン菌 T 型別の年次推移を示した。主要な血清型である T-1 型, 4 型, 12 型の 3 種は例年 50% 以上を占めている。2007 年²⁾はこの 3 種で総分離株の 76.3% を占めた。特に T-12 型による溶レン菌感染症が 2007 年 10 月から 2008 年 3 月にかけて急増した。そのため 2008 年は T-

12 型の占める割合が 2007 年の 45.5% をはるかに上回る 66.7% であった。1989 年より調査を開始したが, 最も高率であった。また T-25 型が 2007 年 1.9% から 11.6% に増加して 1999 年来の流行になった。病原微生物検出情報^{3), 4)}によると T-1 型, 4 型, 12 型の主要血清型 3 種に加えて T-25 型の増加が目立ち, 同様な傾向を示した。インフルエンザ菌の型別は型不明が 87.1% で 2007 年同様高率であった。b 型は細菌性髄膜炎⁵⁾の起病菌となるとともにさまざまな重症感染症に関与すると言われている。このため型別を正確に行うことは重要である。従来 of 荚膜血清型別法に代わり PCR 法による b 型別を試みた結果, 血清型別法で型別不明であった 4 株について型別が可能になり, 髄液由来の 4 株全て b 型と確

付表 A 群溶レン菌 T 型別の年次推移 (1989~2008)

	T型	1	2	3	4	6	8	9	11	12	13	14/49	18	22	23	25	28	B3264	型不明	計			
1989	60		1	95	37				2	102	1		3	3			7	5	15	331			
%	18.1		0.3	28.7	11.2				0.6	30.8	0.3		0.9	0.9			2.1	1.5	4.5	100			
1990	39		5	101	55			1	14	75		3		2	10		29	8	22	364			
%	10.7		1.4	27.7	15.1			0.3	3.8	20.6		0.8		0.5	2.7		8.0	2.2	6.0	100			
1991	69	3	2	157	16		2	2	24	212		3		2	27		19	21	25	584			
%	11.8	0.5	0.3	26.9	2.7		0.3	0.3	4.1	36.3		0.5		0.3	4.6		3.3	3.6	4.3	100			
1992	175		31	129			1	1	18	89		2		1	12		5	65	143	672			
%	26.0		4.6	19.2			0.1	0.1	2.7	13.2		0.3		0.1	1.8		0.7	9.7	21.3	100			
1993	85		35	190	1				34	123		4		24	17		31	61	81	686			
%	12.4		5.1	27.7	0.1				5.0	17.9		0.6		3.5	2.5		4.5	8.9	11.8	100			
1994	110		15	172	2				21	265				95	9		1	40	18	36	784		
%	14.0		1.9	21.9	0.3				2.7	33.8				12.1	1.1		0.1	5.1	2.3	4.6	100		
1995		1	2	116	2				9	122				9	4			36	17	14	332		
%		0.3	0.6	34.9	0.6				2.7	36.7				2.7	1.2			10.8	5.1	4.2	100		
1996	125			103	111				7	41				4				18	7	54	470		
%	26.6			21.9	23.6				1.5	8.7				0.9				3.8	1.5	11.5	100		
1997	82	4		66	39				7	61					4			25	11	17	316		
%	25.9	1.3		20.9	12.3				2.2	19.3					1.3			7.9	3.5	5.4	100		
1998	58	17		57	37				6	100					1			42	43	10	18	389	
%	14.9	4.4		14.7	9.5				1.5	25.7					0.3			10.8	11.1	2.6	4.6	100	
1999	55	5		68	3			1	3	59		4			1			66	42	6	44	357	
%	15.4	1.4		19.0	0.8			0.3	0.8	16.5		1.1			0.3			18.5	11.8	1.7	12.3	100	
2000	51	4		22	34				1	74					6			16	8	14	10	241	
%	21.2	1.7		9.1	14.1				0.4	30.7					2.5			6.6	3.3	5.8	4.1	100	
2001	84	5	9	46	7				1	97		1						6	10	8	5	279	
%	30.1	1.8	3.2	16.5	2.5				0.4	34.8		0.4						2.2	3.6	2.9	1.8	100	
2002	23	17	40	97	3				4	58								11	18	5	3	279	
%	8.2	6.1	14.3	34.8	1.1				1.4	20.8								3.9	6.5	1.8	1.1	100	
2003	24	1	17	107					1	99		1						1	11	12	27	6	307
%	7.8	0.3	5.5	34.9					0.3	32.2		0.3						0.3	3.6	3.9	8.8	2.0	100
2004	80	1	2	42	18				4	73		1						8	4	11	4	248	
%	32.3	0.4	0.8	16.9	7.3				1.6	29.4		0.4						3.2	1.6	4.4	1.6	100	
2005	21	15	33	19					4	20								4	3	6	2	127	
%	16.5		11.8	26.0	15.0				3.1	15.7								3.1	2.4	4.7	1.6	100	
2006	138	3	52	44					9	41		3						6	9	2	307		
%	45.0		1.0	16.9	14.3				2.9	13.4		1.0						2.0	2.9	0.7	100		
2007	16	2	32	5					8	71								3		15	4	156	
%	10.3		1.3	20.5	3.2				5.1	45.5								1.9		4.9	1.3	100	
2008	9	1		11	4				1	138		1						24	2	8	8	207	
%	4.3	0.5		5.3	1.9				0.5	66.7		0.5						11.6	1.0	3.9	3.9	100	
計	1,304	59	179	1,696	437		3	5	178	1,920		24	1	140	94		1	192	358	332	513	7,436	
%	17.5	0.8	2.4	22.8	5.9		0.04	0.1	2.4	25.8		0.3	0.01	1.9	1.3		0.01	2.6	4.8	4.5	6.9	100	

認められた。百日咳疑い患者の拭い液 6 件から PCR 法により、1 件百日菌を検出し、検出できなかった検体について PCR 法よりも感度の優れている LAMP 法を試みた結果さらに 1 件検出することができた。LAMP 法は感度が優れているばかりか短時間で結果を得ることができるため百日咳菌を検出するには最適な方法であると認識した。検出した 2 件について様々な方法で分離を試みたが菌を分離することができず、今後検討を重ねていきたい。

まとめ

1 2008 年 1 月から 12 月まで採取された検体 592 件から 514 株の細菌を分離した。

2 A 群溶レンサ菌 207 株は T-12 型が 66.7 % を占め、調査を開始してから最も高率であった。

3 腸管系病原菌は *Salmonella* 7 株、*Campylobacter jejuni* 2 株、であり。下痢原性大腸菌 25 株を分離した。

4 *Salmonella* の血清型は 6 種類で、Enteritidis 2 株、Bareilly, Stanley, Singapore, Lithchfied, 亜種 4:i:-各 1 株であった。

5 大腸菌の血清型は 6 種類で、O1 が 16 株 64.0 %、O74 が 4 株 16.0 % を占めた。O86a2 株、O15、O18、O126 が各 1 株であった。いずれの大腸菌にも毒素遺伝子は認められなかった。

6 髄膜炎からの分離菌は、*Cryptococcus neoformans* 2 株、*Staphylococcus epidermidis* 1 株、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 1 株、ペニシリン感受性肺炎球菌 1 株、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 3 株、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 1 株であった。

7 肺炎球菌は 121 株、インフルエンザ菌は 124 株分離された。

8 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検査では、85.9 % に変異が認められ、ペニシリン感受性肺炎球菌 14.0 %、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 36.4 %、ペニシリン耐性肺炎球菌 49.6 % であった。マクロライド耐性遺伝子は 92.6 % に認められた。

9 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検査では、82.3 % に変異が認められ、 β -ラクタマ

ーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 17.7 %、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 7.3 %、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 75.0% であった。

10 インフルエンザ菌の型別は、型不明が 87.1 % であった。b 型は 7 株検出された。7 株中 4 株は従来の荚膜血清型別法に代わり PCR 法により型別が可能になった。髄液由来株は、全て b 型に型別され、薬剤耐性遺伝子を有していた。

11 百日咳疑い患者の 6 件中 2 件を PCR 法、LAMP 法により菌を検出した。

12 *Corynebacterium striatum*、*Mycobacterium fortuitum* の 2 株をシーケンスにて菌種を決定した。

謝辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

引用文献

- 1) 平沢恭子, 須釜久美子, 長沢正秋, 他. 平成 16 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌). 福島県衛生研究所年報 2004; 22: 59-66.
- 2) 小黒祐子, 小澤奈美, 渡邊奈々子, 他. 2006 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌). 福島県衛生研究所年報 2007; 25: 印刷中
- 3) 国立感染症研究所. <特集> 溶血レンサ球菌感染症 2000 ~ 2004. 病原微生物検出情報 2004; 25: 252-258.
- 4) 国立感染症研究所 感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> 2009/1/30
- 5) 国立感染症研究所. <特集> 細菌性髄膜炎 2001 現在. 病原微生物検出情報 2002; 23: 31-37.

2007/2008 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行について

廣瀬昌子 五十嵐郁美 門馬直太 柏原尚子 三川正秀 大竹俊秀
微生物課

要 旨

2007/2008 シーズンのインフルエンザ患者発生は、第 40 週に始まり、第 31 週まで続いた。ピークは第 5 週であった。ピーク時における定点あたりの報告数は 23.5 と 2006/2007 シーズンより規模の小さい流行であった。

分離したウイルスは A (H1) 型 76.0% , A (H3) 型 3.2% , B 型 20.8% であり、A (H1) 型を主とした 3 型の流行であった。また、B 型は山形系統が 9 割を占めた。

HI 抗体は、A (H1) 型、B 型 (山形系統) では 15 ~ 19 歳をピークに比較的保有されていたが、A (H3) 型、B 型 (ビクトリア系統) では低い保有状況であった。

キーワード：インフルエンザ 感染症発生動向調査 ウイルス検索 感染症流行予測調査

はじめに

当所では、感染症発生動向調査に基づき県内の医療機関より搬入された検体のウイルス検索を行っている。

県内における 2007/2008 シーズンのインフルエンザ流行状況を把握するために、患者情報、ウイルス分離状況、血清抗体価保有状況を報告する。

材 料

1 ウイルス検索

2007 年 10 月から 2008 年 7 月まで、感染症発生動向調査により県内 5 保健所管内の 7 医療機関から搬入された 521 検体 (514 症例) を用いた。その内訳は咽頭ぬぐい液 507 件、髄液 10 件、気管吸引液 1 件、鼻汁 2 件、喀痰 1 件であった。

2 血清学的検査

2007 年度感染症流行予測事業のインフルエンザ感受性調査をインフルエンザ流行前の 2007 年 8 月 2 日から 10 月 31 日までの間、県北地区の成人及び医療機関受診者の同意を得て採取した血清 225 検体 (0 歳 ~ 88 歳) について抗体調査を行った。年齢階層別検体数を表 1 に示す。

表 1 年齢階層別の検体数

年齢階層	検体数
0 ~ 4	25
5 ~ 9	28
10 ~ 14	29
15 ~ 19	18
20 ~ 29	19
30 ~ 39	41
40 ~ 49	28
50 ~ 59	11
60 ~	26
合計	225

方 法

1 流行状況の把握

福島県感染症発生動向調査週報による患者発生状況について集計した。

2 ウイルス検索および同定

感染症発生動向調査により搬入された検体のうち呼吸器系検体および髄液について RD-18s ,Hep-2 ,VERO ,LLCMK2 および MDCK の 5 種類の細胞に接種し、2 代継代を行った。MDCK 細胞において細胞変性効果 (CPE) が出現したものについては、国立感染症研究所より分与されたフェレット免疫血清およびヒツジ免疫血清を使用し、0.75 % モルモット血球による赤血球凝集抑制試験 (以下 HI 試験)

により同定を行った。

抗血清使用株を以下に示す。

A/Solomon Islands/3/2006 (A (H1) 型) (ワクチン株))

A/Hiroshima/52/2005 (A (H3) 型) (ワクチン株)

B/Malaysia/2506/2004 (ビクトリア系統) (ワクチン株)

B/Shanghai/361/2002 (山形系統)

3 血清学的検査

血清を RDE () (デンカ生研製) で処理した後、平成 19 年度感染症流行予測事業要領により HI 試験を行った。抗原はデンカ生研製の A/Solomon Islands/3/2006 (A (H1) 型) , A/Hiroshima/52/2005 (A (H3) 型) , B/Malaysia/2506/2004 (ビクトリア系統) と国立感染症研究所より分与された B/Florida/7/2004 (山形系統) の 4 株を使用した。

結 果

1 流行状況

1) 県内における患者発生状況

2007/2008 シーズンのインフルエンザ患者情報を図 1 に示した。県内では第 40 週 (いわき市) に報告が開始され¹⁾、第 49 週には流行開始の指標と考えられる定点あたりの報告数が 1.0 を越え、第 5 週にピークとなった。その後、第 21 週には定点あたりの報告数が 0.5 未満となり終息した。流行開始から終息までの患者報告数の累計は 12,817 人、ピーク時の定点あたりの報告数は 23.5 で 2002/2003 シーズン以降、流行の規模は最も小さかった。ピーク時の定点あたりの報告数は 2005/2006 シーズンとほぼ同じであった (表 2)。

地域別発生状況を見ると、流行開始は、県北、いわき市が第 48 週、郡山市第 50 週、会津第 51 週、南会津第 52 週、これ以外の地域では第 49 週であった (図 2)。ピーク時期は各地域の流行開始から会津で 6 週後、南会津で 7 週後、いわき市は 10 週後、その他の地域は 8 ~ 9 週後であった。流行の終息は県南で第 15 週、いわき市は第 16 週、県北、郡山

表 2 県内のインフルエンザ患者報告数

シーズン	患者数 (40週～39週)	ピーク時定点 あたりの報告数
2002/2003	19,144	37.6(6週)
2003/2004	15,349	31.8(5週)
2004/2005	27,063	53.7(6週)
2005/2006	14,129	26.2(4週)
2006/2007	19,482	35.6(11週)
2007/2008	13,118	23.5(5週)

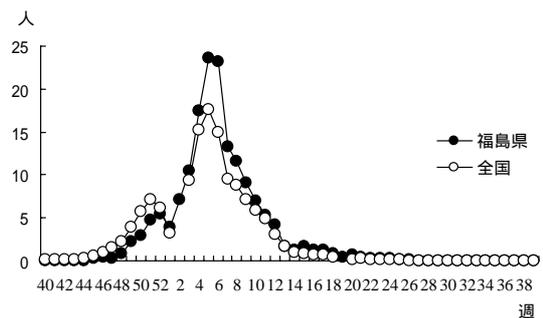


図 1 患者報告数

市は第 19 週、県中、相双は第 18 週であった。会津、南会津はそれぞれ第 26 週、第 21 週であり他の地域より遅かった。

2 ウイルスの分離状況

1) 週別分離状況

県内の週別ウイルス分離状況を図 3 に示した。2007/2008 シーズンは、最初に第 47 週に採取された相双の検体から A (H1) 型が分離された。その後、第 52 週には B 型を、第 10 週には A (H3) 型を分離し、2007/2008 シーズンも 2006/2007 シーズンと同様 3 型が分離された²⁾。A (H1) 型は第 47 週から第 15 週まで分離され、A (H3) 型は第 10 週から第 15 週まで、B 型は第 52 週から第 20 週まで分離された。各型の分離数は A (H1) 型 117 株 (76.6 %) , A (H3) 型 5 株 (3.2 %) , B 型 32 株 (20.1 %) 合計 154 株であった。B 型は山形系統 29 株、ビクトリア系統 3 株であった。

地域別週別分離状況を見ると (図 4) , 県北では第 49 週から第 14 週まで A (H1) 型が分離された。郡山市では第 49 週から第 7 週まで主として A (H1) 型が分離されたが、

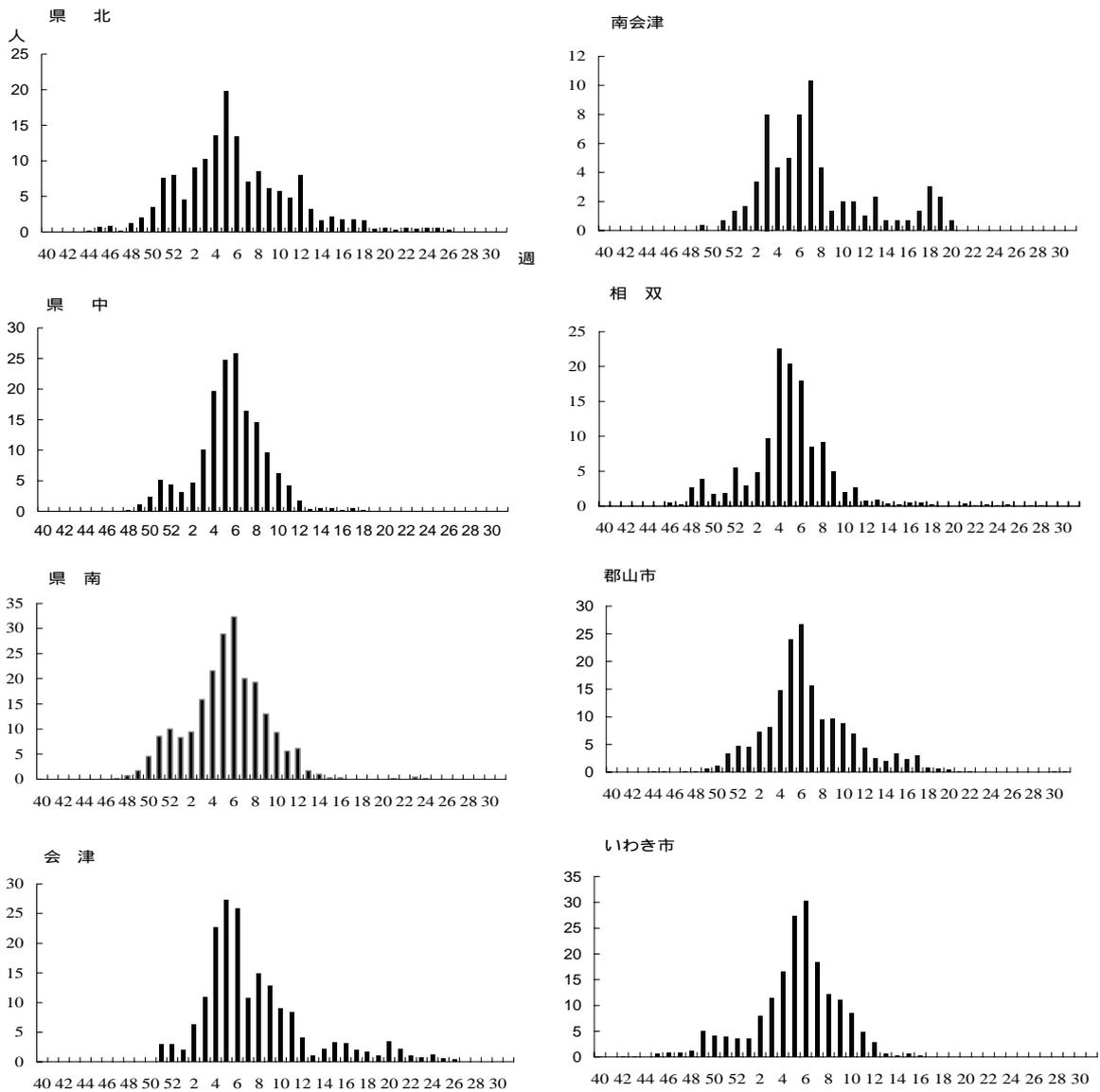


図2 定点あたりの地域別患者報告数

第10週以降は主としてB型が分離された。相双でも郡山市と同様の傾向が見られた。いわき市では第50週から第6週までA(H1)型が分離された。A(H3)型は、郡山市，相双，いわき市で第10週から第15週に1～2株分離されている。

2) 年齢階層別分離状況

年齢階層別分離状況を図5に示した。分離数は0～4歳60株(40.0%)，5～9歳65株(42.2%)，10～14歳20株(13.0%)15歳以上9株(5.8%)であった。A(H1)型，B型は各年齢層から分離されたが，A(H1)型の

占める割合は各年齢層ともほぼ同じであった。

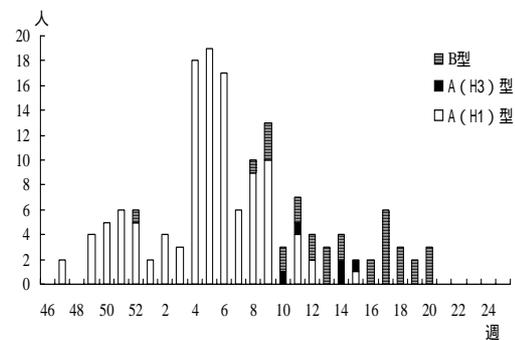


図3 週別ウイルス分離状況

3) 分離陽性者の診断名及び臨床症状
 ウイルス分離陽性者の初診時診断名を表3に示した。インフルエンザの診断名が134例(87.0%)と大部分を占め、上気道炎は20

例(13.0%)であった。次に症例数の少ないA(H3)型を除いた臨床症状を表4に示した。発熱が98.7%と最も多く、次いで上気道炎(73.4%)であった。

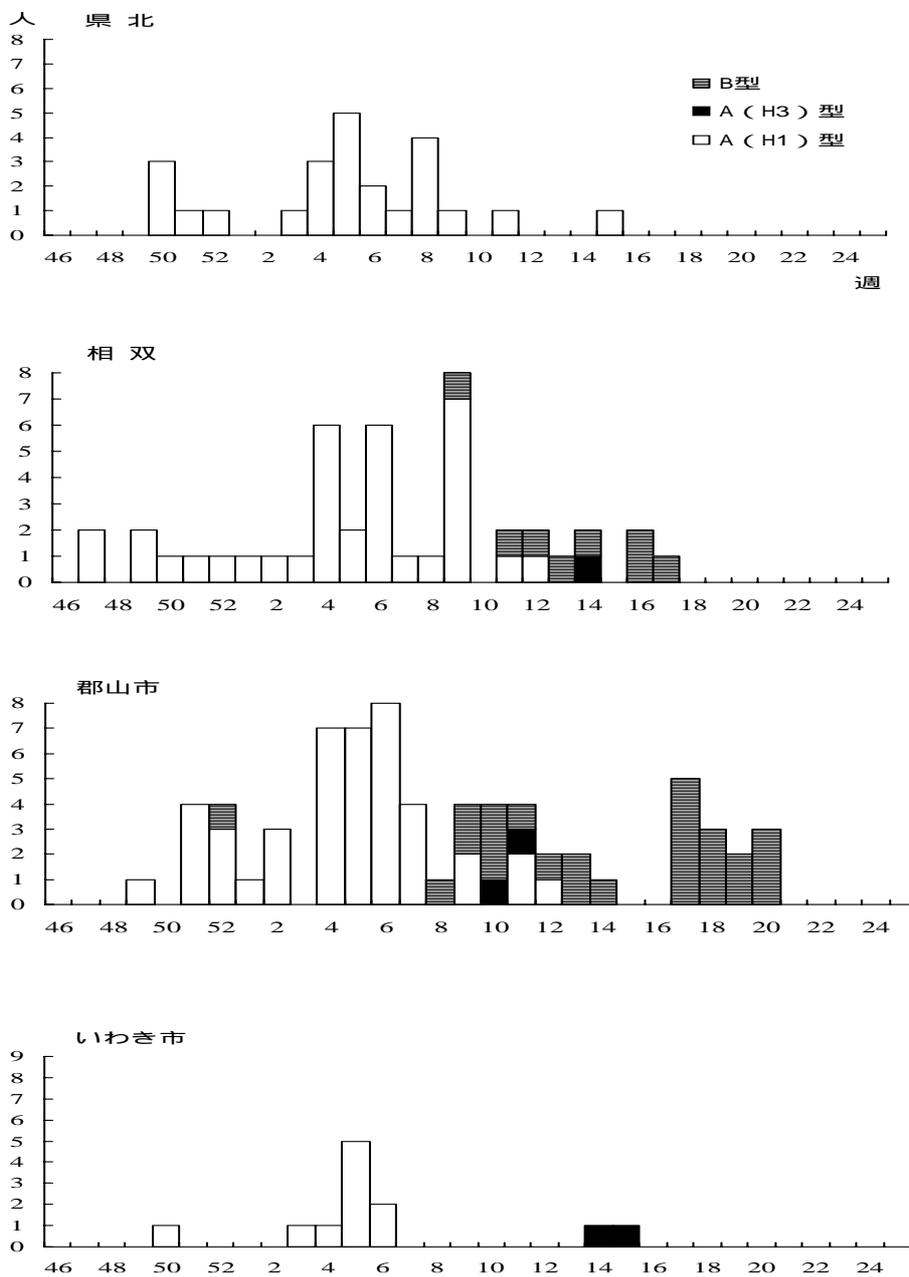


図4 地域別週別ウイルス分離状況

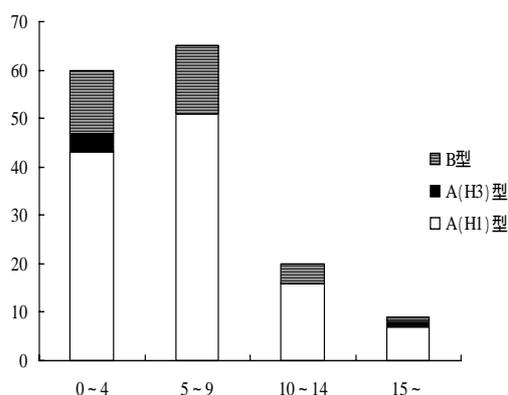


図5 年齢階層別ウイルス分離状況

表3 ウイルス分離陽性者の診断名(診断時)

診断名		人数	割合
イ	インフルエンザ	116	
ン	インフルエンザ・熱性けいれん	6	
フ	インフルエンザ・気管支炎	2	
ル	インフルエンザ・クルーズ症候群	3	
エ	インフルエンザ・扁桃炎	2	134 (87.0%)
ン	インフルエンザ・急性上気道炎	2	
ザ	インフルエンザ・気管支炎・熱せん妄	1	
	インフルエンザ・気管支肺炎	1	
	インフルエンザ脳症疑い	1	
	扁桃炎	5	
	急性扁桃炎	1	
	扁桃炎・気管支炎	2	
	腺窩性扁桃炎	2	
上	咽頭炎	2	
気	咽頭炎・気管支炎	1	20 (13.0%)
道	咽頭炎・熱性けいれん	1	
炎	急性咽頭炎	1	
	気管支炎	2	
	気管支肺炎	1	
	ヘルパンギーナ	1	
	クルーズ症候群	1	
	合計	154	

3 血清学的検査

インフルエンザ感受性調査による HI 抗体保有状況を、図6に示す。

1) A/Solomon Islands/3/2006 (A(H1)型, 2007/2008 シーズンワクチン株)

本株は、2006/2007 シーズンの A/New Caledonia/20/99 から変更になった株である。2006/2007 シーズンの分離株の約 20% を占めた。HI 抗体価 10 倍以上の保有率は 10 ~ 59 歳で 60% 以上と高く、特に 15 ~ 19 歳では約 90% と最も高かった。有効防御免疫の指標とみなされている HI 抗体価 40 倍以上は、15 ~ 19 歳で 67% の保有率であったが、60 歳以上では 10% 未満の低い保有状況であっ

た。

2) A/Hiroshima/52/2005 (A(H3)型, 2007/2008 シーズンワクチン株)

2006/2007 シーズンの分離株の 50% を占めた。HI 抗体価 10 倍以上の保有率は 10 ~ 14 歳、20 ~ 29 歳で 60% 以上の高い値であったが、5 ~ 9 歳、30 ~ 39 歳、50 ~ 59 歳では 45 ~ 48%、0 ~ 4 歳、60 歳以上では 20 ~ 27% であった。HI 抗体価 40 倍以上の保有率は全般的に低く、0 ~ 4 歳で 4%、50 ~ 59 歳では 0% であった。

3) B/Malaysia/2506/2004 (ビクトリア系統, 2007/2008 シーズンワクチン株)

2006/2007 シーズンはビクトリア系統のみの分離であった。

HI 抗体価 10 倍以上の保有率は 20 ~ 49 歳で 60 ~ 90% を示したが、0 ~ 4 歳で 4%、60 歳以上では 8% と低い値であった。HI 抗体価 40 倍以上の保有率は全般的に低く、30 ~ 39 歳の 40% が最も高く、0 ~ 29 歳、50 歳以上では 0 ~ 17% の低い値であった。

4) B/Florida/7/2004 (山形系統)

2006/2007 シーズンは、分離されなかった。HI 抗体価 10 倍以上の保有率は 10 ~ 49 歳において 79% 以上の高い値であったが、0 ~ 4 歳、60 歳以上では 15% 以下であった。HI 抗体価 40 倍以上の保有率は、10 ~ 29 歳で 44 ~ 56%、30 ~ 49 歳では 28 ~ 32% を示したが、0 ~ 9 歳、50 歳以上では 18% 以下で、特に 4 歳以下では 0% であった。

まとめ

1 県内における患者発生状況

2007/2008 シーズンは、2006/2007 シーズンよりも小さい流行であり、過去 6 シーズン中最も小規模であった。

2 ウイルス分離状況

分離したウイルスは、A(H1)型 76.0%、A(H3)型 3.2%、B型 20.8% であった。A(H1)型を主とした 3 型の混合流行であった。

3 HI抗体保有状況

2006/2007 シーズンの保有状況と比較して

表4 分離陽性者の臨床症状発現率(%)

	上気道炎	下気道炎	関節痛	筋肉痛	肺炎	痙攣	中枢神経症状	意識障害	倦怠	嘔気	下痢	胃腸炎	口内炎	発熱	～	37.1	38.1	39.1	40.1	
A(H1)型	117例	70.9	17.1	0.9	3.4	2.6	3.4	1.7	1.7	0.9	0.9	0.9		100.0	0.9	10.3	46.2	40.2	2.6	
A(H3)型	5例	80.0											20.0	100.0		20.0	80.0			
B型	32例	81.3	18.8		6.3	9.4		3.2			6.3	3.2		93.8		6.3	53.1	34.4		
合計	154例	73.4	10.4	0.6	5.2	3.9	2.6	0.6	0.6		3.2	0.6	1.3	98.7	0.6	9.7	48.7	37.7	1.9	

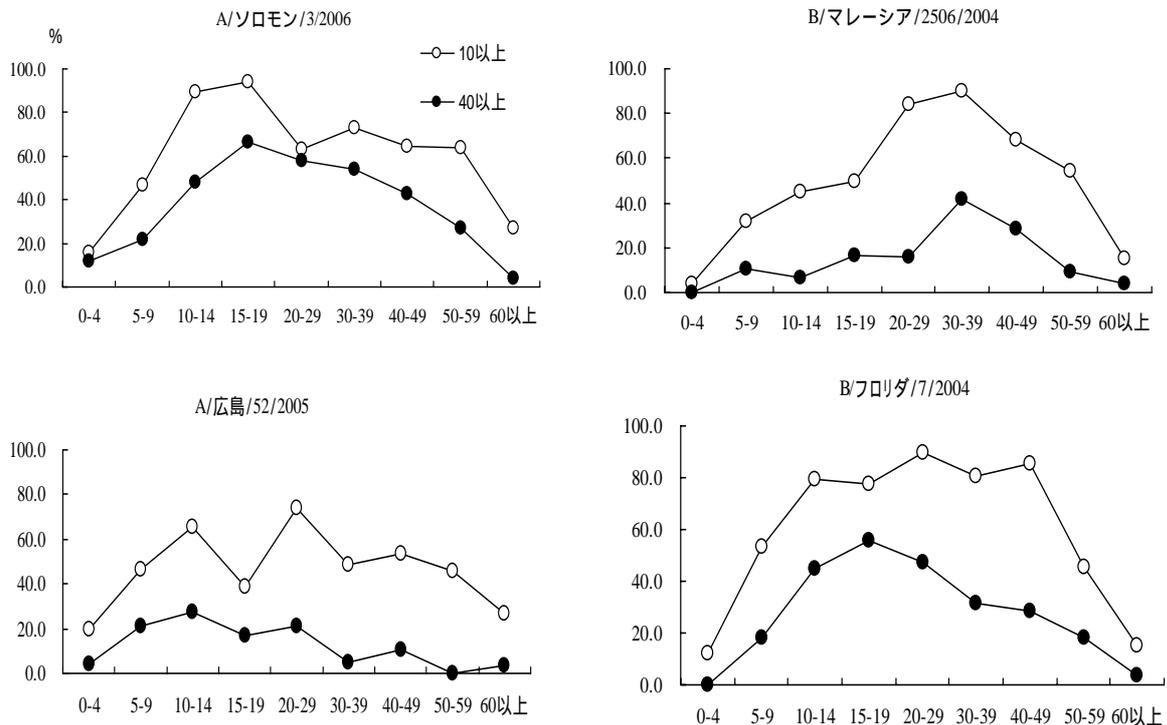


図6 年齢階層別HI抗体保有状況抗体保有率

高い傾向にあった。A(H1)型は全般的に高い保有状況にあったが、低年齢層と高年齢層では低い保有状況であった。A(H3)型のHI抗体価40倍以上の保有率は、全体的に低い保有状況であった。B型のHI抗体価40倍以上の保有率は、ビクトリア系統では30～49歳の40%が最高であった。また、山形系統は10～59歳で44～56%の高い保有状況であった。全般的に4歳以下、60歳以上で低い抗体保有状況であった。

謝 辞

本調査を行うに当たり、検体の採取にご協力いただいた県民の皆様並びに各医療機関の諸先生、国立感染症研究所、保健所職員の方々に深く感謝します。

引用文献

- 1) 福島県感染症週報 2007; 40
- 2) 廣瀬昌子, 菱沼郁美, 柏原尚子, 他. 2006/2007 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況について. 福島県衛生研究所 2006; 24: 79-86